393.3
Ko12

思想戰略論

小林知治 著

0056588000

③

0056588-000

393.3－Ko12ウ

思想戦略論

小林知治・著

地平社

昭和１８

AJD

この著作物は、著作権者不明のため、著作権
第６７条の規定に基づき、平成１２年５月１
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するもの

思想戰略論

小林知治著

393.3
K012

393.3
Ko·12

思想戰略論

小林知治著

地平社

昭和十七年十二月廿日
帝國圖書館

961
170

序文

防衛總司令部參謀
陸軍大佐　加藤義秀

國家總力戰に對する認識は漸く普遍化し、思想戰に關する論議も夙に廣く行はれて居るが、其の具體的研究や實踐に至つては尙甚だ心細い狀態である。

思想戰には攻擊と防禦とがある。思想戰攻擊に關しては我が國策遂行に卽應して努力すべき點が多々存するのであるが、一方思想防衛に對しても大なる關心を拂ふの切要なるを痛感する。凡そ戰爭と國民思想とは密接なる關係にある。國民の戰爭遂行意志の强弱は、實に戰爭勝敗の岐る る所であつて、戰爭が永引くにつれ益々然りである。古今の史實を見るに、武力戰に勝ちつゝも國民思想の崩壞により敗れた國が決して少くないのである。

我國は今や聖戰を繼續すること五年有餘、國難愈々加はり國民思想の狀態も極めて復雜多難なものがある。我が聖戰は今後更に何年續くか判らぬ。國民の中には旣に戰爭に倦怠を覺え、戰爭に由來する各種影響により精神的打擊を受けつゝあるものが少くないのではないか。決して表面事象に眩惑せられ、自惚れに過ぎ、國民思想惡化の原因が、逐次醞釀せられつゝあるに對し、放漫無關心なるを許さないのである。武力戰着々の成功のみを以て戰爭最後の勝利を獲得し得るとは保證出來ない。殷鑑遠からず、古今の史實に照し、前車の轍を履まざるの用意を緊要とするのである。

國民思想の崩壞には內外各種の原因がある。小林知治君は廣く史實を求め、之が原因を探究して思想防衛の爲好個の資料を蒐集し、玆に之が出版を見るに至つたのは國家の爲寔に同慶に堪へない。

國民の戰爭遂行意志を强化するには、一方積極的精神昂揚の手段を講ずると共に、逐次之が弱化の原因を矯めて其の崩壞を防止せねばならぬ。思想弱化の原因は國外よりの作用の外、廣く國內の各部面に亙つて居る。本書は單なる思想研究家の參考書ではない。戰時下の各種業務に從ふ者、戰時下の生活をなす者悉くが必讀すべき書である。此の書が各種方面に亙り、又一人でも多く讀まるゝならば、聖戰完遂の爲裨益する所甚だ大なるものありと確信する。時宛も對英米の宣戰が布告せられて國民の緊張愈々急なる秋に當り、吾々は此の戰爭が如何に困難なるも、如何に長期に亙るも、飽くまで戰ひ拔かねばならぬ。彼等は凡ゆる策を弄して我が國民思想の崩壞を企圖するであらう。思想防衛の要益々切なるものあるを痛感する。敢て推奬する所以である。

まへがき

一、本書の內容は戰時下國民思想の崩壞を如何にして防衞すべきかを論じたものである。敵國側の宣傳、謀略、諜報攻勢を防衞すると同時に、國內からの敗戰主義を克服すべき、銃後國民の思想防衞の心構へを說いたものである。いはば思想戰略序論とも言ふべきもので、出來るだけ平易簡明に書いたつもりである。

一、初の豫定は戰時國內治安要綱のやうな形式の下に、政治、經濟、思想、文化等に亘る廣汎なる國家總力汎論を書きあげるつもりであつたが、著者の身邊多忙のため、豫定の五分の一にも充たない枚數で世に問ふことにした。

一、卷末の參考文獻は、著者が本書の執筆に際して調査蒐集したもののホンの一部分である。その序列も順序不同、亂雜を極めたものであるが、多少でも讀者諸兄の御參考にでもならば、筆者の幸甚とするところである。尙引用書目の頁數と參照も揭げておいた。洋書參考文獻中＊印

は、邦譯のあることを示したものである。

一、この小篇の資料蒐集と研究方法に關して、陸軍大佐加藤義秀氏、陸軍中佐甲谷悅雄氏、陸軍中佐大越兼二氏より賜はつた御指導と御厚意を衷心より感謝する次第である。

一、本書執筆中、著者は兩親と姉を亡ふといふ精神的打擊を受け、更に肉體的には持病の腦充血の再發といふ二重の苦惱と闘ひつゝ續稿した。この間滿洲、蒙古、北支、中支等大陸各地を從軍視察し、歸國後席暖まる暇もなく直ちに衆議院議員翼賛總選擧に立候補して、激戰の中に身を投ずる等、走馬燈の如く目まぐるしき多忙裡に執筆を完了した。

このささやかなる小篇を、謹んで亡き兩親の靈前に捧ぐる次第である。

目次

序論　一億國民總進軍への途　……一五

1、思想戰の新傾向　2、國家崩壞の共通原則　3、フランス敗戰の眞相　4、誤まれる他力本願主義　5、思想國防の要諦

本論　第一篇　宣傳戰

——基本要綱——

第一章　思想戰の重要性……二九

第二章　對敵宣傳の體系と手段……三一

1、戰時宣傳の體系　2、三つの宣傳手段　3、世界の同情を確保すること　4、戰爭目標を掲げること　5、熱烈なる祖國愛を持たしめること

第三章　宣傳戰に敗れたドイツ……四一

1、戰鬪に勝ち宣傳に敗れたドイツ　2、ルーデンドルフの嘆聲　3、ヒトラー總統の攻擊

第四章　宣傳戰の諸原則……四七

1、宣傳の主要目標　2、誇張宣傳は逆効果をもたらす　3、ラスウェル教授の名言　4、宣傳秘訣の四原則

第五章　イギリスは如何に宣傳したか……五三

1、アストン卿の回想　2、新聞彈丸發明者の出現　3、クヴユー・ハウスの秘密　4、ノースクリフ卿の覺書　(イ)勝利の希望を失はしめること　(ロ)經濟的に重壓を加へること　(ハ)文明擁護の標語を立てること　(ニ)敵國内平和主義者に呼びかけること　(ホ)權威ある聲明を發表すること　(ヘ)戰爭の責任を敵に押しつけること

第六章　獨英宣傳合戰譚……六五

1、イギリス情報局の擴大　2、對獨攻擊の怪文書　3、獨英のラジオ毒舌戰　4、ホーホー卿の對英放送　5、ドイツの幽靈放送

第七章　米佛の宣傳組織を覗く……七四

1、大がかりなアメリカの宣傳　2、フランス新聞の家の活躍　3、惡どい宣傳で敵愾心を煽る

第八章　ドイツの宣傳とその失敗……七九

1、宣傳機關の不統一　2、檢閲の無方針　3、軍部と政府の軋轢　4、ドイツ敗戰の眞相

第九章　大東亞戰下日本の對外宣傳……八五

1、米英のデマ宣傳　2、樞軸國離間に躍起　3、呆れ果てた逆宣傳　4、嘘八百の重慶宣傳　5、日本の强力な聲の爆彈　6、活潑な對外宣傳　7、ABCD放送陣擊破　8、積極的對米宣傳　9、帝國の理想と理論に屈伏　10、海外放送とその反響

第十章　むすび……一〇二

1、宣傳機關を擴大せよ　2、宣傳の重要性を認識せしめよ　3、必勝の信念を堅持せしめよ　4、責任ある指導政治

第二篇　謀略戰

——基本要綱——

第一章　戰時謀略萬華鏡……一一五

1、政治經濟の謀略　2、謀略の意義と内容　3、近代謀略の諸傾向

第二章　ソ聯の謀略戰術……一二〇

1、煽動工作を重視する　2、ソ聯の反戰鬪爭綱領　3、軍隊崩壞手段

第三章　日本の軍事謀略……一二七

1、明石大佐の對露謀略　2、革命運動を援助する

第四章　ドイツの外交謀略……一三〇

1、日獨墨三國同盟の劃策　2、密電暴露さる

第五章　獨ソ思想謀略戰……一三三

1、レーニンの封印列車　2、獨兵赤の保菌者となる　3、獨ソ戰とソ聯のゲリラ戰

第六章　獨英の謀略戰（革命、叛亂、暗殺）……一三八

1、ドイツの對英謀略　2、アラビアのローレンス　3、ヒトラー暗殺未遂事件

第七章　ドイツ白書の暴露……一四二

1、英佛の對獨謀略の暴露　2、饒舌無能な英佛政治家群

第八章　經濟謀略（買收・罷業・放火）……一四六

1、ドイツの對米謀略工作　2、アメリカ言論界を買收する　3、罷業爆破を煽動す　4、帝政ロシアのフランス新聞買收　5、重慶の對日放火謀略

第九章　國內運動と指導者の任務……一五六

1、民の聲を注意深く打診せよ　2、國民は何を望んでゐるか　3、飯と鐵砲玉主義　4、戰時下國民の義務　5、個人主義を揚棄せよ　6、國民士氣を昂揚させよ　7、翼政會職力增强要綱　8、國民の覺悟と指導者の任務

第十章　む　す　び……一七四

1、敵國の謀略を排除せよ　2、健兵健民へ邁進せよ　3、國民生活を確保せよ

第三篇　防　諜　戰

——基本要綱——

第一章　近代スパイの多角化……一八一

1、諜報範圍の擴大　2、スパイ組織の機械化　3、綜合的探知法の發達

第二章　列國諜報網の素描……一八六

1、完備せる英國諜報部　2、恐怖ソ聯のゲ・ペ・ウ　3、氣鋭ナチスのゲシュタポ

第三章　各國諜報の對日攻勢……一九三

1、日本の暗號電報盗まる　2、栗野公使の回想談　3、ワシントン會議で日本嘲弄さる
4、一記者の打明話

第四章　敵性國家對日探知の諸相……二〇一
1、駐日某國武官の暗躍　2、英國スパイ檢擧さる　3、宗教の假面下にスパイ　4、防諜知識普及の急務

第五章　秘密戰の種々相……二〇七
1、官民協力して防諜　2、寒天と鯛と煙草のからくり　3、官廳、工場、會社の書類を利用
4、宗教と歸還兵士の言行　5、不注意の撮影

第六章　國民防諜戰士心得帖……二一四
1、一億國民防諜の秋　2、個人(家庭)防諜　3、國體(官廳、銀行、工場)防諜

第七章　わが國の國防保安法……二二〇
1、國防の完璧を期する目的　2、國防保安法案全文

第八章　各國の秘密防衛法……二三六
1、獨伊の防衛法　2、英米ソ聯の防衛法　3、わが國の防衛法案の眼目

第九章　防諜と防空問題……二四〇
1、一スパイは一師團に匹敵する　2、スパイにより爆擊を誘導さる　3、防空と防諜は離すことは出來ない　4、空襲下の思想對策　5、防空必勝の信念

第十章　むすび……二四八
1、防諜體制の布陣　2、防諜思想の普及　3、國內思想の團結

結論　銃後國民決戰の秋

第一章　必勝の政戰兩略陣……二五五
1、不敗の戰略陣　2、强力政治の確立　3、政戰兩略の一致

第二章　鐵壁の經濟陣……二六三
1、生產體制の確立　2、統制會と生產增强　3、國民生活確保と勞務對策　4、國民收入の公平化　5、銃後經濟生活の確立

第三章　ドイツ國民生活……二七三
1、戰爭完遂の指導方針　2、銃後の國民生活　3、生產增强と切符制　4、最低生活の保證

目次

第四章　銃後のイタリヤ……二七九
1、生産の擴充と日常品の規格化　2、消費の節約　3、物價通貨對策　4、前線と銃後の緊密なる連絡
第五章　銃後國民決戰の秋……二八六
1、皇道宣布の思想戰　2、戰時國民生活の緊張　3、大陸邦人の責務　4、銃後國民奮起の秋

序論

一億國民總進軍への途

1、思想戰の新傾向

近代戰が國家總力戰となつて來た今日、そこには前線の勇士と銃後の國民との區別はなくなつた。從つて、國家間の生存競爭の白熱化に伴ふ國家國民の生活それ自體が戰爭となつて來た。政治、經濟、外交、軍事、文化、思想等のあらゆる分野が相錯綜し、大規模に展開し、國家の總力を擧げて戰はねばならぬ秋となつて來た。

殊に國家總力戰においては思想戰略が、武力戰略、經濟戰略と共に三位一體の重要地位を占めて來たことは、蔽ふべくもない事實である。近代思想戰略の傾向がその宣傳の方法において、謀略の內容において、諜報の手段において驚くべきほど科學的に綜合的になつて來たからである。

宣傳方法においても從來の如き虛僞、僞瞞揑造によらずに、宣傳らしからざる宣傳方法で、敵國に物心兩面の打擊を與へんとするやうになつて來た。第二次世界大戰が勃發してより列國は競つて宣傳省の設置、情報局の擴大を企て、その效果を最大限に擧げることに努力してゐる。

また謀略に現はれた著しい傾向としては、從來の如く、叛亂、革命、陰謀、罷業、暗殺、放火等の手段方法を超えて經濟的重壓により、敵國側の資源を衰亡させ、生產力の低下を圖り、國民生產を脅威せしめ、生活窮迫化と精神萎縮による敗戰主義を皷吹するやうになつて來た。

諜報方面においてもその活動暗躍が著しく變化して、從來の非合法手段（機密の竊取、盜寫、無電傍受、暗號解讀）と併行して合法手段（社交、視察、見學、旅行）が重視せられる傾向は特に注目すべきである。すなはち、新聞、雜誌、年鑑、報告、統計、繪畫、寫眞、官公私の刊行物の綜合的研究により、軍事秘密、軍用資源、外交及び內政秘密、國民思想生活等を打診し判定するのである。

2、國家崩壞の共通原則

さて顧みるに、戰時下において、國內治安の混亂に伴ひ、如何に國家が內部から崩壞し

たかを檢討するに、これが普遍的な共通原則として、凡そ左の如き諸理由を指摘し得るのである。

すなはち頻繁なる內閣の更迭による戰時內閣の弱體化、政爭の激烈並びに政治家の腐敗、國務と統帥の摩擦、戰略と外交の不調、長期戰に伴ふ國民經濟生活の苦惱、國民負擔の不公平と戰時利得者への反感、物資不足と物價騰貴による國民生活の窮迫等である。

これらの諸理由に國內反戰思想の擡頭と敵國側の宣傳、謀略、諜報の攻擊による（敗戰主義、流言蜚語、同盟罷業、新聞買收、暗殺放火、暴動爆破）國內の不安、動搖混亂が因となり、食糧暴動、同盟罷業、國軍の反亂等が直接動機となり、國家が崩壞し去つたのである。これらは、殷鑑遠からず前大戰中における獨露兩國に、また今次大戰ではフランスにこれを見出すことが出來るのである。

就中フランスの敗戰の如きは、今世紀における最大悲劇であらう。敗戰フランスを双肩に擔ふペタン元帥は、フランス敗亡の原因を兵器、兵力、同盟國の不足に歸してゐる。フランス敗北の原因若くは理由については、アンドレ・モロア、ジュール・ロマン等の外に多くの徒輩がこれを語つてゐる。かれらの語るところは、殆んど例外なく政治家、軍人、外交官、官僚、資本家に對する激しい憎惡と怠慢への批判や非難を浴せてゐることである。

勿論フランスを擔ふ軍部政治家群の責任は重大であるが、もつと深く掘り下げればフランスの三大弱點たる資本主義、民主主義、官僚主義に根據をおく自由主義、個人主義、享樂主義に毒された國民精神の弛緩が重大原因であらう。

3、フランス敗戰の眞相

フランス敗戰の綜合的原因を檢討するならば、凡そ左の如き諸理由が擧げられるのである。即ちフランス革命以來の政治的根本思想である自由、平等、博愛の名の下に實施せられたる民主主義、個人主義思想が、フランスの高度國防國家建設を阻害したことである。

フランス議會制度の不安定は、頻繁なる內閣の更迭となり、國策の一貫性を缺き、國民の信賴を得ざるに至つた。試みに一八七二年第二共和國成立以來、今日に至るまで內閣の更迭を數ふるに百四回の多數に上り、一九一七年以來四十回の內閣の更迭を見た。かくの如く猫の眼の如き內閣の更迭では、國民の信賴をかち得ることは到底出來ない。

フランスの政黨は十有餘に亘る小黨群に分れ、政爭が劇烈であり、小數黨にキャスチング・ボートを與へる結果となる。從つて人民戰線諸黨（共產黨、社會黨）等の勞働政策の過重のため、生產擴充は阻害せられ、國庫補助金の膨張は、赤字財政に拍車をかけるに至つた。ドイツ參謀本部は、「完全に頽廢せる國家組織、前世紀的遺物を模範とせる權謀術數に寧日なき舊式政治體制、一ダース餘の黨派に分裂せしめられたる哀れなる國民」と敗殘フランスの舊體制組織に鋭きメスを加へてゐる。ハインリッヒ・ボールによればフランスの敗因は、一、裏切りと怠業　二、平和主義　三、ナチスに對する認識不足　四、組織能力の缺乏の四原因であると指摘してゐる。

4、誤まれる他力本願主義

フランス政治家が國家興亡の危機に際しても、互ひに嫉視排擊し合つたことは事態を更に惡化せしめた。ダラディエ首相とレイノウ藏相の戰時內閣下における喧嘩口論は、ルブラン大統領を困惑せしめ、かれら政治家共の私的生活が腐敗墮落してゐたことは、モロアの言を藉りるまでもなく、ジュール・ロマンの「歐羅巴の七つの謎」、アンドレ・シモーンヌの「余は糺彈す」の中にも指摘せられてゐるところである。

更らにまた國務と統帥の不一致のため、政戰兩略の一致を缺いた。政主軍從の政治組織であるフランスでは首相の權力は强大である。作戰に素人の政治家（レイノウ首相）が作戰に干涉容喙して、ガムラン國防相にフランダースの野にドイツ軍邀擊を强要して、フランスに致命的な作戰的誤謬を招來せしめた。

フランス軍部ではマジノ要塞絕對信賴派が多く、ガムラン將軍及ジョヴィノー派がこれを代表してゐる。フランス陸軍大學教官ジョヴィノー將軍が「フランス侵入は可能なりや」の著書において、マジノ線の絕對安全を强調し、飛行機、戰車の攻擊力を過小視し、ド・ゴール大將（當時大佐、現在ヴィシー政府に對抗する抗獨派の總帥）の機械化部隊設置案を排擊したために、フランス軍備の近代的整備の立遲れたことは蔽ふべくもない事實である。

個人主義、民主主義思想はフランス國民の世界觀を個人第一主義に墮せしめ、政治、經濟、外交、軍事、思想、教育の各部門を國防目的に集中することが不可能となつた。特に產兒制限の普及は人的資源の不足となり、フランス敗因の重要原因となつたことは、ペタン元帥の指摘するところである。

フランス國内の勞資の對立は深刻となり、相互の相剋と排擊を演じて、隣國ドイツの雪辱戰の準備を理解し得ず、英佛の心理的合作もなく、ドイツの巧妙なる英佛離間宣傳工作に乘ぜられたることを指摘し得るのである。

要するに「誰がフランスを敗戰に導いたか」は、フランスの政治家、軍部、外交官、官僚、資本家等の罪ではなく、全フランス國民の精神的弛緩にその責を歸すべきである。ジ・ージ・エリオットは「ドイツがその士氣において、指導力において、フランスに超越し、フランスはその有力なる指導者もなければ、奮起せらるべき士氣もなかつた」と喝破してゐる。他力本願主義に國策の基調をおくフランスの敗亡は、われらに多大の教訓を與へるものである。

5、思想國防の要諦

續つて戰時下日本の思想防衛の完璧を期するためには、如何なる對策が樹立せらるべきであるか。これが對策としては、高度國防國家の建設、强力内閣の樹立等幾多の國内對策があるが、就中國民生活の安定と國民士氣の昂揚が最大急務であらう。

換言するならば、國内思想防衛の要諦は、社會不安を一掃し、國内分裂思想を統一し、敗北主義を克服し、流言蜚語を取締り、國民士氣を昂揚するにある。國民士氣の昂揚と言つても徒らに大言壯語するのでもなければ、美辭麗句を並べるのでもない。國民に對し内外時局の重大性を正しく認識せしめ、國民各自をして帝國の運命を双肩に擔はしむる覺悟と決心を持たしめるにある。國土防衛のために、一億國民が總進軍の巨歩を進め、一路戰勝への途に驀進するにある。

回顧すれば支那事變は所謂大東亞解放戰の前衛戰であり、それは米英の間接的攻勢基地の粉碎であつたとも言へるのである。今やわが國は、暴戾米英膺懲の宣戰が布告せられてより一周年を迎へて、その間無敵皇軍は外に赫々として輝く大戰果を擧げ、内には鐵壁を誇る生産陣を布き、大東亞戰完遂に驀進してゐる。

國民はハワイ・マレー沖、ソロモン沖の海戰、香港、シンガポール、フィリッピン、ビルマ、蘭印攻略の緒戰の輝かしき戰果に醉ふことなく、勝つて兜の緒を締めて、銃後國民も前線將兵と同じ氣持を以て、堅忍不拔の精神と必勝の信念に燃えて、一億火の玉となり、大東亞戰完遂に一路直往すべきである。

本

論

第一篇 宣傳戰

——基本要綱——

○國家總力による近代戰においては、前線銃後の區別なく、政略戰、思想戰、經濟戰が武力戰に並行乃至先行して行はれることを國民に認識せしむること。

○思想戰における宣傳組織、機關、制度を連絡統合し、その對外對內の活潑なる活動をなさしむべく、關係各官廳の協調精神を發揚せしむること。

○國內治安維持のために、國民經濟生活の安定を圖り、社會不安を一掃し、國內分裂思想を統一し、敗北主義を克服し、各種の流言蜚語を取締り、一路戰勝への道へ邁進せしむること。

○政府、翼贊會、翼政會の三位一體の團結を鞏固にし、國內の諸宣傳機關（ラジオ、新聞、雜誌、映畫、演劇等）を總動員して、前線將兵の志氣を鼓舞すると同時に、銃後國民の擧國的支援を求むること。

第一章　思想戰の重要性

今次歐洲大戰の敎訓により、準備なき國家が如何に敗戰の憂目を見たか、われらはこれを眼前に見せつけられた。ドイツ側の優秀なる裝備と相俟つて、巧妙なる宣傳と有効なる第五列部隊の活動により聯合國側、特にポーランド、フランスの內部的崩壞が著るしく促進せられたといふ特殊的現象をまざまざと見せつけられたのである。

ポーランド壞滅の裏面には、ドイツ第五列部隊の活躍があり、フランス降伏の背後には、ドイツの宣傳攻勢によるフランス國內の分裂抗爭があつたことは、アンドレ・モロアの所說を借りるまでもなく世間周知の事實である。（註1）

思ふに戰爭において、政略、思想、經濟等が戰爭遂行の重要なる要素ではあつたが、それらは大體、武力戰遂行の助成的要素と見なされてゐた。すなはち武力の附隨的手段、乃至後方勤務と見られてゐた。

然るに國家總力戰の發動手段として、前線銃後の全領域が活動舞臺となつた近代戰においては政略戰、思想戰、經濟戰が武力戰に並行乃至先行する重要手段と見なされるに至つた。特に思想戰における宣傳、謀略、諜報の秘密交戰が重要なる要素となつて來たのである。

「思想戰とは國家が世界の輿論の前に自國の名分を立て、敵國の名分を貶し、自國の國防力を保持强化し、敵國の抵抗意志を減殺せしむるための思想的武器を持つて行ふところの戰鬪である」ことは言ふまでもない。(註2)　思想戰は時間的には必らずしも武力戰とは一致しない。思想戰は戰前戰後を通じて繼續されるのである。從つてこれらの作戰手段は平時戰時を問はず常に統一した一定の方針に基き、一貫せる指導方針に則つて、貫徹遂行しなければならぬ。

すなはち、內にあつては國民經濟生活の安定を圖り、社會不安を一掃し、國民思想を統制し、外に向つては適切有效なる宣傳謀略の手段により、敵の戰意を挫き、その國家組織を崩壞せしめるために、大規模なる思想戰略が要望せられるのである。

第二章　對敵宣傳の體系と手段

1、戰時宣傳の體系

思想戰の外策手段として大約(一)宣傳戰(二)謀略戰(三)諜報戰の三種に區別することが出來る。宣傳戰の方法には、新聞、雜誌、ラジオ、映畫演劇の利用、パンフレット及びリーフレットの撒布、電報、ポスター、講演、演說、示威運動の利用等非常に廣汎多岐に亘るが、これを大別すれば、(1)敵國に對する宣傳、(2)中立國に對する宣傳、(3)國內に對する宣傳の三種に分けることが出來る。

以上の三種に大別することが出來るが、宣傳の要點、手法、宣傳媒體、訴求等その形式はそれぞれ異るのであるが、究極の目的が戰勝にあるのだからこれらの一切は有機的に組織化されねばならない。一見して何等の關係もなく行はれてゐるかの如き宣傳も、實際は一定の體系の下に有機的に結ばれて、統制ある宣傳活動となるのである。

大雜把に戰爭宣傳の體系を示すと大體次の如く分類することが出來る。

（一）　對敵宣傳

（イ）　對敵民衆宣傳

1、思想動搖工作
2、後方攪亂工作
3、民心離反工作
4、反戰運動誘導工作
5、革命暴動援助指導
6、政治經濟機構破壞
7、言論機關買收工作

（ロ）　對敵國軍宣傳

1、敗戰ニュース、映畫提供
2、前線攪亂
3、戰意喪失

4、反戰思想誘導
5、叛亂工作
6、降伏勸告

（ハ）　對占領地民心把握工作

1、治安工作
2、社會政策
3、經濟復興
4、教化工作
5、文化工作
6、民衆誘導

（二）　對中立國宣傳

1、戰爭目的とその理想理論の說明
2、中立維持工作
3、自國側への參戰乃至好意的中立誘導

4、敵國側への威力經濟援助の阻止
5、敵國への反感醸成
6、敵國の宣傳破壞
7、言論機關把握による有利なる輿論指導

(三)　對國內宣傳

(イ)　銃後宣傳

1、迅速なる戰況報告
2、戰爭目的、理想理論の解明
3、銃後國民輿論の統一及び精神昂揚工作
4、民心安定を圖る宣傳教化
5、反戰運動の防衛
6、愛國精神の昂揚
7、戰時國民經濟の確立と增產奬勵運動
8、戰時思想運動の强化
9、戰時社會政策救恤運動
10、傷病兵職業指導工作その他

(ロ)　前線宣傳

1、戰況報告
2、前線銃後の連絡による國內事情報道
3、士氣鼓吹と慰問演劇、映畫、歌謠その他
4、世界政局並に作戰狀況報告

2、三つの宣傳手段

(一)　敵國に對する宣傳。敵國軍の指揮を攪亂し、その作戰を誤らしめ、軍隊の士氣を阻喪せしめるものと、進んで敵國民の意氣を挫き、戰爭繼續を斷念せしめ、國內政治經濟組織を分裂、混亂、破壞せしめ、更らにこれを革命動亂に導く等である。

(二)　中立國に對する宣傳。敵國に對し惡感情を抱かしめ、自國に好感を持たしめる。中立國

に自國の平和愛好精神と正義を、敵國の平和破壞と國際法違反を確信せしめ、出來得ればこれを味方に誘ひ、少なくともこれを我に好意的中立國たらしむることである。

(三)　國內に對する宣傳。わが國の行動の正義に對する信念と、勝利に對する確信を强化せしめ、その一切の力を最高度に緊張せしめて、擧國一致の戰爭遂行を貫徹すべく努力すること等である。

宣傳は戰爭を決定するとはいへないが、策略や謀略を用ひて、戰局を有利に導き、これを支援し、戰勝を完成せしむるため役立つのであるから、有效適切な方法によらねばならぬ。虛僞の宣傳は一時は無批判な大衆に受容れられるが、虛僞は直ぐに露顯することを注意すべきである。永續的の效果を有する宣傳は、確實な事實に基き且つ世界の輿論の信用を確保するが如くに爲さねばならぬ。それには各國の政治經濟機構並に國民心理を知悉し、敵國の宣傳に對抗するのみならず進んでその先手を打たねばならぬ。

一九一四年九月ドイツ情報部が、マルヌの失敗と軍事的意義を國民に知らせなかつたことが、後に至つて、非常に不利を招いたとルーデンドルフは述懷してゐる。(註3)

3、世界の同情を確保すること

敵國並に中立國に對する宣傳は、陸、海軍の情報部、外務省が密接なる協力の下に爲さねばならぬ。國民の信賴を獲得される思想家、評論家、國際法の權威者の參加の下に、法的立場の有效な擁護と敵の國際法違反、人道主義無視なども有效に利用すべきであらう。

前世界大戰當時におけるイギリスの宣傳は、他の追隨を許さぬものがあり、無技巧の技巧は一頭地を拔いてゐた。第一次世界大戰以來、イギリス政府當局は戰爭と謀略、戰爭と宣傳との重要な聯關性を認め、眞劍な研究を重ねて來た。顧みれば第一次世界大戰後今日に至るまで列國において發表せられた外交文書の數は三萬七千を超過してゐる。(註4)これに直接に關係ある外交官政治家、將軍、提督等の回想錄や備忘錄が多くは自己辯護乃至は宣傳的で「事件に携はる中心人物が局部的觀察に捉はれ、大局的に達觀し得ざる嫌ひがある」(註5)が、大體においてイギリスの外交並に宣傳が巧妙であるに反し、ドイツのそれが拙劣であつたことは、何人も否むことの出來ないところであらう。ルーデンドルフをして「祖國を敗戰に導いたのは宣傳戰である」との嘆

聲を發せしめるほど、ドイツ側の宣傳は支離滅裂であつた。

4、戰爭の目標を掲げること

國內の自國民に對する宣傳の普遍的な原則として、まづ國民に戰爭が敵國側の挑戰によつて强制されたものであり、且つ又、戰爭が國家の名譽並に國民の生存權の擁護のために戰つてゐることを確信せしむるにある。戰爭の前途を照らす光明と希望と理想とを國民に明示して、現在の苦難と犧牲に甘んずべしとの祖國愛の鼓吹が大切である。

第一次大戰當時の聯合國側は戰爭の目標を政治的宣傳に主力を注ぎ「世界デモクラシーのために」とか、「國際間恒久平和のために」とか、「ドイツ軍國主義を打倒せよ」などのスローガンを掲げた。戰爭目標に一大理想を掲げ、それを國民に宣傳して、國民の愛國心に訴へ、その理解と感激と支援を獲得するために、各國政府は思想家、評論家、詩人、文藝家、教育家等あらゆる分野に亘る國民精神總動員をなして宣傳した。

國家首腦部は戰爭の長期化するにつれて、戰費負擔の公平、勞務並に財產に重い負擔を課せられて、經濟生活の不安に惱む國民に對しては特に勝利を約束し、國內の治安維持に努力し、生活資料の供給に深甚なる注意を拂はねばならない。

前線にある將兵の士氣を鼓舞するのはもとより當然であるが、銃後國民の擧國的犧牲と支援を求めねばならない。戰時下における銃後國民の飢餓、窮乏、死傷、別離等のあらゆる悲哀と缺乏に耐へ忍ぶために、貧富老幼男女の區別なく、負擔を公平に、犧牲を平等に、國民の協力を說得し、最後まで戰ひぬく決心と覺悟とを促がさねばならぬ。

5、熱烈なる祖國愛を持たしめること

かかる困難な任務の遂行には、熱烈な祖國愛、毅然たる態度も必要であるが、輕佻浮薄な强制的愛國心でなく、國民の心奧から盛りあがる獻身的愛國熱に俟たねばならぬ。これらの一切の努力は、戰爭が長期化するに伴ひ、戰死傷者の續出、生活資料確保の困難、國民生活の窮乏化につけこみ、敵國側の國內團結の分裂、敗戰思想の浸透、階級鬪爭の激化等の毒素の逆宣傳と謀略に注意せねばならぬ。

意識的に國内に敗戰主義を鼓吹する共産黨分子や、無意識的に敵國側の宣傳に乘ぜられて、これと協力して所謂「メガホン」や代辯者の地位に立つ自由主義的分子に對しては、國家は峻嚴なる態度を以て臨まねばならぬ。

かゝる場合國家は、「議會、新聞、雜誌、ラジオを通じて爲される分裂的意見の發表を禁止し、國境を閉鎖し、外國との往復手紙を監督し軍事機密の漏洩に對する嚴重なる立法、集會の禁止、不平分子の首腦者の拘禁、交通機關の監督、惡意のストライキ」(註6)等に對し、國民の團結を阻害する惧れある者に對しては、極めて嚴正且つ峻烈なる斷乎たる處置を爲す必要がある。

ルーデンドルフの「國家總力戰」を借りるまでもなく、國民團結を阻害する行爲を防止するだけでなく、新聞、ラジオ、映畫、その他各種の發表物及びあらゆる手段を盡して、國民團結の維持を圖るべきである。但し政府の强力政策も、敵國側のラジオ放送、飛行機による宣傳ビラの投下、スパイの流言蜚語、一知半解の知つたかぶり屋の敗戰談の流布、噂話を根絶させることは出來ない。かゝる毒素の發生を摘發し、これが蔓延を防ぐためには諸官廳の協力、秘密警察の活動及び國民の自發的協力が絶對に必要である。

第三章　宣傳戰に敗れたドイツ

1、戰鬪に勝ち宣傳に敗れたドイツ

アンドレ・モロアの書いた「フランス敗れたり」は、フランス共和國が世紀の嵐に倒れて行つた姿を描いたもので、著者の透徹せる史眼、鋭い人物觀察眼、圓熟せる小說的技巧に加へて、かれが連絡將校として軍政の機微に觸れてゐる關係から現代史の最大悲劇を描き、「平家物語」でも讀むやうな哀愁を感ぜさせられるのである。

アンドレ・モロアとは正反對にルーデンドルフの書いた「回想錄」は、著者が前大戰當時の軍政首腦者であるだけに、ドイツの崩壞してゆく悲劇を咏嘆してゐる。かれの口吻を借りれば精鋭を誇るドイツ軍隊が戰場においては絶えず敵を壓倒しておきながら、聯合軍の宣傳のために國内が崩壞した事を指摘してゐる。かれのいはゆる「戰鬪に勝ち宣傳戰に敗れた」といふ事實は宣傳

が如何に重要性を持つかを證明してゐる。第一次大戰のドイツ國內の十一月革命直後スエーデンに逃れて、そこで「大戰回想錄」を執筆したルーデンドルフ將軍の教訓は、敗戰ドイツばかりではなく、世界各國に「宣傳と戰爭」に關する良き研究題目を提供した。宣傳は惡魔よりも恐怖され、毒ガスよりも惡性だといはれる所以である。

2、ルーデンドルフの嘆聲

ルーデンドルフは聯合軍の對獨宣傳を左の如く回想してゐる。(註7)

「ドイツ國民は戰線、銃後共に四年間長き戰爭に惱み、戰爭が國民感情、國民意識を害つたところ頗る多い。革命の觀念は、敵側の宣傳とボルシェヴィストによつて鼓吹されたが、ドイツ國民はこれを受け容れんとするに傾き、獨立社會黨を通じて陸軍海軍に地歩を占めて行つた。」

「毒草は地にはびこり、ドイツ的感情と愛國心は人々の胸から消えて行つた。利己主義は前線にも現はれて來た。戰爭利得を追ふあらゆる種類の者は國家の危機と政府の弱體を利用し、政治的個人的利益を求めて狂奔し、蔓延するばかりであつた。政治においてもこれに異なるものではない。忍耐する精神能力は脆弱化し、自信を喪失した。」

「敵側の宣傳の前にドイツは蛇の前の蛙の如きものであつた。極めて巧妙に、そして大規模に行はれた。その暗示は大衆に著しい效果を及ぼし、攻勢と巧みに併せ行はれ、その手段は陰微の裡に行はれた。」

「敵の宣傳はドイツ帝國の結合を破り、ドイツをその帝室、王侯、政府と國民とに分離することに集中されてゐた。簡單明瞭に革命を意味してゐる。その宣傳は、また諒解による平和とか戰後の軍縮、乃至國際聯盟とか字句のもたらす效果についてよく知つてゐた。平和好きで政治を知らぬドイツ國民は欺かれてこの言葉によくついて行つた。」

「ドイツ內部の政治は分裂しており、ドイツの世界の舞臺への登場は早すぎたので、國內と國際とを使ひ分ける用意も出來てゐなかつた。ドイツが世界平和を脅威したこともないし、戰爭終結に邪魔したこともない。自決の權利は滔洪に效果あり、一九一八年初より宣傳は社會革命に向けられた。ドイツ上層階級一萬のために勞働者が戰爭に追ひやられ、勝利を得ても勞働者の利益にはならないといふのである。敵の宣傳と過激社會主義の宣傳は、ドイツ國內において同一の目的に同時に作用し、イギリスは支那に阿片を吸はしたが敵はドイツに革命を注入した。」

「ドイツ宰相は一般民衆が不滿とすることにつき、理由あるものは除去すべく、戰時工業でもあまり恣意私慾に走るものに對する對策を講ずべきであつた。これが社會の廣範圍に亘つて憤懣を生ぜしめ、國民の戰意を破り、戰爭遂行能力を阻害することは量り知れざるものがあつた。利潤追求、奢侈、利己はすべて名譽ある雰圍氣を打消し、戰線の塹壕に戰ふ兵士は、國內における自己の職場の奪はるべきを恐れ、ドイツ國民は眞摯忠實、滅私奉公の念はなくなつて、自分一個の利益が生活の唯一の標準であるといふ、非ドイツ的觀念に置き換へられた。」

「ドイツ國民の良識は未だ成長し切らず、批評能力を缺き、從つて標語とか當にもならぬ前約の意味なきを看破することが出來なかつた。總ての不幸はこゝに胚胎する。われ〳〵は民衆がこの種のものをぶち破つて、事實に行きつくことを希望したが、その氣配はなかつた。

國內の政爭の苛烈となるに從ひ、階級間の間隙は擴められ、都市と農村は疎隔し、標語その他罪惡と看做し得る暗示が巾を利かした。政黨と政黨の目的は國家の上におかれ、錯亂せる群衆の位置にあるブルジョアは、知識はありながら訓練を缺き、勝手の方向に走り、行動の意慾なく、性格もない國家に對しての責任を感ぜず、國家と自らに如何に多大の損害を與へてゐるかの自覺もなかつた。」

3、ヒトラー總統の攻擊

ヒトラーも大戰當時のドイツ國內宣傳の劣性を指摘し、ドイツ國內を革命に導いたものは、敵國側の戰時宣傳であると言つてゐる。ドイツ側の宣傳は正に零に近い、とイギリス側の虛僞の宣傳力を讃嘆すると同時に、敵側の宣傳に乘ぜられたドイツの「政治家共」をこつぴどく攻擊してゐる。

「ドイツを戰敗の餘儀なきに到らしめたのは、實に一九一四年から一九一八年までの間、ドイツの統治が宜しきを得なかつたといふ一個の不運にある。ドイツの敗退はひとへに民主主義的政府當局者が國民の誤つた信用を得、國民を瞞着した結果である。」(註9)と民主主義政治家を攻擊して、ドイツをして內部から崩壞せしめた民主主義者の一群や、マルキスト、ユダヤ人たち(エーベルト、シャイデマン、バルト、リーブクネヒト、エルツベルガー)を裏切者と痛罵してゐるのである。

ヒンデンブルグ將軍もその(回想錄)に、「ドイツは引續き勝利を得つゝあつたにも拘らず、

戰爭が際限なく續くといふ不安と失望は、勇敢なる多數兵士の意氣を銷沈せしめた。戰場において絕えず死地にある兵士が、危險と困難、戰鬪と騷擾に應接に遑がない時、鄕里からは實在並に想定の艱難と缺乏とに就いて不平を申送つて來る。しかもそれは聯合軍の宣傳であつたのだ。」

と述べてドイツの敗戰が軍事的理由からではなく、敵國側の魅惑的宣傳の餌に釣られて、銃後の國民が內部的に瓦解したからであると慨嘆してゐるのである。（註10）

帝制ロシアの崩壞も、ドイツと大同小異で共通的原因があるので左に錄する。帝制ロシアの國會議長であるロジァンコが帝制ロシア崩壞の原因を、かれの回想錄である「ロシア革命と國會及軍隊」の中で、政府と國會の軋轢、敵國側の宣傳、軍隊士氣の頽廢等に歸してゐる。就中軍隊士氣の頽廢について、左の如く述懷してゐる。（註11）

「私は光輝ある祖國の軍隊を誹謗しようとする者ではない。いはんや、自分の尊い鮮血をもつて困難なる戰ひに勇敢なる働きを示した將校を非議しようとする者では絕對にない。しかし正直にいへば、軍隊頽廢の徵候はすでに戰爭の第二年目からあらはれてゐた。例へば一九一五―一六年の交戰に敵の捕虜となつた者二百萬人に達し、また戰線からの脫走兵は約百五十萬人に達してゐた。このため約四百萬人近くの戰鬪員が失はれ、そしてこの事實は明らかに士氣の頽廢を物語つてゐた。」

第四章　宣傳戰の諸原則

1、宣傳の主要目標

宣傳の普遍的原則としてハロルド・ラスウェルは次の四つの主要目的を掲げてゐる。（註12）

一、敵に對する嫌惡の情を味方に起さしむること。

二、聯合國の友誼を保つこと。

三、中立國と友誼を保つこと、しかして若し出來るならば、中立國の協力を得ること。

四、敵を攪亂すること。

戰時下の自國民の團結を確保し、國民に對して敵を嫌惡せしむることは爲政家の重大要事である。また聯合國と友誼を保ち、尙ほ進んで中立國の友誼を得るのみならず、中立國の利益を尊重

し、自らこれを味方に誘引するやう宣傳力を利用することの必要は言ふまでもない。敵を攪亂して、敵國民間の思想を分裂せしめ、これを自國に有利に導くべきであるが、この宣傳は愼重なる方法を用ひないと逆效果をもたらすことがある。

クリスト教、マホメット教、佛教等の宗教宗派の反目を利用したり、資本家勞働者間の軋轢を利用したり、軍部と政治家の爭鬪を利用する等種々の手段が使用されるのであるが、これが採用は機敏なる行動と、正確なる報道によつてなされねばならない。

正確なるニュースによる宣傳と詭辯、すなはち逆宣傳は兩立して進ませることが望ましい。前大戰中ドイツ政府食料管理局は、五十瓦の豚油を一定日に國民に分配すると約束したが、或る故障のため實現出來なかつた。ドイツ政府は素早く詭辯を弄して、敵國側の潜航艇戰による輸送船擊沈のためと莫大な豚油の統計的數字を發表して、國民大衆の落膽を慰めたことがある。

2、誇張宣傳は逆效果を來たす

ヒトラーは「我が鬪爭」の（大戰當時の宣傳）項目中で「大戰中に發生した幾多の事件は、宣傳が殆んど信じられないほど强力であつた。ドイツの諸新聞は敵を滑稽な取るに足らない愚者として嘲笑した。ところが、ドイツ將兵は戰場でその敵に遇ひ、新聞に書いてあつたことが本當でないことを知つた。かれらは恐怖はしなかつたが勇氣を失つた。かれらは新聞記事を疑ふやうになり、ひいては戰爭そのものゝ理由まで疑ふやうになつた。」（註13）とドイツ國內宣傳の誇張性乃至僞瞞性を衝いてゐる。

ルーデンドルフもその「回想錄」中において（註14）勝報の誇大は事實が國民間に知れ渡るにつれ失望感が增大するものであると警告してゐる。「ユトランド沖海戰（ドイツ側ではスカゲラックの海戰と言ふ）の勝報を聽き國民は欣喜したが、この勝報は中立國關係を有利に導いたところ尠なくはない。但し後に至りこの喜悅は、ドイツ海軍の損失も當初の報知と異なり多大であることが判明するに及び消え去つた。」

・第一次世界大戰における唯一の大海戰といはれたユトランド海戰が、獨英兩國双方において勝利が主張せられてゐるが、この海戰において英艦隊は、巡洋艦三隻、裝甲巡洋艦その他を失ひ、ドイツ海軍に比し、損害が頗る甚大であるとドイツ側が早くも發表した。中立國側はドイツ側が自軍の損害の一部を伏せて公表したので、大いにドイツ海軍を讃嘆したのであるが、後でイギリス

側の公表によりドイツ海軍も相當に損害を受けたことを知り、ドイツ側の宣傳發表物の信賴感が弱められたことをルーデンドルフは指摘してゐるのである。

3、ラスウェル教授の名言

プロパガンダ學の權威ラスウェルは宣傳原則に就いて左の如く言つてゐる。「宣傳は交戰中の政府に依つて公的に指導さるべきである。組織や指揮の統一は各國政府によつて能率的に實踐されねばならぬ。何となれば國際的向背はこの宣傳組織の活動によつて決定されるからである。」

事務的な計畫等は國內において行はれ、外交官大使館附武官等は國外にあつて情報や宣傳を行ふのが普通である。參謀本部、野戰司令部、諸大臣は主として給養、國內治安問題等に關係するのが常である。然し宣傳組織が統一されぬ時は危險をもたらすものである。外務省、野戰司令部が敵に對して自國を有利に誘導しない時には、そこには墮落と敗北が來るのである。自國に不利なる戰況が若し不用意に自國軍人達によつて報道される場合には、國家の沒落を誘致するが如き輿論を惹き起すであらう。

單なる麥粉の不足の如き報道も、海軍の損失の報道（海上權の喪失によつて輸入が杜絕したといふ理論）となり、軍隊の損失、飛行機の損失が（有力な農產地の被占領）のニュースとなつて現はれて來る。これが手形交換所へ通ずると經濟混亂が捲き起されるのである。

今回の歐洲大戰勃發するや、ドイツは銃後の國民生活安定策として食糧政策に充分な注意を拂つてゐる。戰爭勃發後、ベルリン市民に一週間一人三個宛しか配給しなかつた鷄卵が、デンマーク、オランダの農業國占領直後一週間四個半の配給となつた。一人宛一個半の增加であるが、食糧配給の增加により、國民に戰勝のニュースによる食糧增加の現實を宣傳し、士氣を鼓舞するに非常な効果的な國內宣傳となつた。この點に關しては前大戰の經驗に鑑み、ドイツ宣傳省にぬかりのある筈はない。（註15）

4、宣傳秘訣の四原則

戰時宣傳の目的は戰爭に勝つこと以外の何ものでもないのである。ヒトラーは宣傳と組織に就いて達識な意見を「我が鬪爭」の中に發表してゐる。「理論家が組織者となることは滅多にない。

組織者はなにより先づ心理學者でなければならない。組織者は人民大衆を過大に評價してはならない。かれは大衆の弱點と野獸性を知らねばならない。またたとひその目的を達するためには煽動者とならなければならないとしても、かれらは或る觀念が眞理であることを信ぜしめねばならぬ」と喝破して群衆心理を摑み、熱心にこれを誘導すべきことを說いてゐる。(註16)

ジー・シー・ブランツによれば、戰爭宣傳には次の四原則を强調してゐる。(一)宣傳は敎育的であること。(二)國民に戰爭に對する恐怖觀念を起させぬこと。(三)戰爭に對して國民に希望を與へること。(四)敵國內に革命を起させること。右の意見の內で自國民に希望を與へ、敵國民に革命を起させることは、最も重視すべき事項である。

宣傳の組織が出來たら、各省間の連絡機關を設けてこれを統一することが大切である。英國諜報部長海軍少將ジ■ージ・アストン卿はかれの著「英國の機密室」(註17)において、英國內宣傳機關の統一を主張してゐる。「その頃までの英國の宣傳は色々の局があつて、まちまちだつたから私は背後にあつてそれを同じものに統一しなければならなかつた。海軍は海軍で宣傳するし、陸軍は陸軍で勝手な宣傳をし、外務省は外務省で情報部を設けて宣傳をした。又拓務省等も少々ばかり宣傳をやるし、代議士はパシフィズムを奉ずる人達だけで何々會といふものを設けて宣傳した。だから、その結果は統一のない合唱團のやうだつた。」故にアストン卿は各機關を連絡統一して、後にドイツ側を恐怖せしめた「宣傳政策委員會」といふ統一ある機關となしたのである。日本における大情報局設置なども、かういつた英國の前轍を學んだものであらう。

第五章　イギリスは如何に宣傳したか

一、アストン卿の回想

第一次世界大戰において、各國は如何なる宣傳組織と形態と活動方針を執つたであらうか。今左にその概觀を檢討することにする。

イギリスの宣傳組織も大戰當初は組織あるものではなかつた。この事情はジ■ージ・アストン卿は前述の如く、各省間の連絡統一が採れてゐなかつたと指摘してゐる。かれはまた、「政黨政治家達は疑ひ深い人々である。かれらは如何なる政府に對しても、宣傳費用を託することを好ま

ない。何故ならかれらは政府がその金を國家の事に使はず、私的利益に使ふであらうことを怖れてゐるからである。」と言つてゐる如く、政黨擴張資金に流用されることを恐れてゐたのである。

最初はウェリントン・ハウスに小規模な事務所が設立され、そこからパンフレットやリーフレットが發刊された。この活動は大戰を通じて輝かしい勝利の一つであるといはれてゐるが、それは表面的には全く個人的なもので、政府の代辯者でないやうに裝はれてゐた。

一方また新聞雜誌局は一九一四年八月に急設されて、後に內務省の監督下に置かれた。外務省にも情報部が設置せられ、その活動も外務次官アッタランドが國會で發表した如く、次の樣な仕事をしてゐた。「われ〳〵は正確なるニュースを提供するばかりでなく、我が國の狀態を他國に知らしめて利益あるやうなニュースや、貿易、就職、兵力補充等に關する報道等、自國の狀態が友好國に利益である限りにおいて、中立國新聞雜誌に提供されてゐであらう。」

2、新聞彈丸發明者の出現

一九一四年一月、情報局が設立され、ビュッハン大佐が局長に任命されてより以來、陸・海・外・拓務の各省間に散在してゐたところの宣傳機關は統一されて、その責任も陸軍大臣及び總理大臣が負ふことになつた。しかしこの宣傳組織は非常に保守的であり、尙當時英本國に對する中立國や植民地の態度が微溫的であつたので、その活動は所期の目的を擧げることが出來なかつた。

次で諮問委員會が設立され、ノースクリッフ卿、バーンハム公、ロバート・ドナルド、シー・ビー・スコットの四人が委員に任命された。後にビーヴァブルック卿、ジョージ・リッデル卿も委員に任命された。しかしそれでも、充分に目的を達することが出來なかつたので、陸軍省からイー・カーソー卿が委囑されてこれに加はり、多岐に亘つた宣傳活動の協調を計つた。

イギリス陸軍省はドイツの戰鬪員、非戰鬪員に對する猛烈なる宣傳をなすべき必要を感じ、別に對敵宣傳機關を設置した。結局一九一八年二月に至りビーヴァブルック卿が情報大臣に任命され、ノースクリッフ卿が對敵宣傳部長に任命されるに至つて、その機關が一層整備して來た。對敵宣傳方法に關し、陸軍省とノースクリッフとの間に幾多の紛糾があつたが、ノースクリッフ卿が宣傳活動の全般に亘つて支配するに及んで、統一ある活動が開始された。

ルーデンドルフは「イギリスはノースクリッフ卿といふ大衆を感動させる名人を有つてゐた」

と言つて「新聞といふ彈丸」の發明者に對して大いに畏怖したのである。前大戰中におけるノースクリッフの功績は敵味方（獨英）兩國から認められてゐる。かれは天賦の新聞人として、大衆の心を掴むことを知つて居り、その上實行能力を有し、尙その目的達成のため何ものをも顧みない鋼鐵の如き意志を持つてゐた。（註18）ドイツ側及び一般聯合國では對獨宣傳の成功をノースクリッフの個人的活動に歸してゐるやうだが、これはかれの力のみではなくかれの協力者の功も忘れてはならぬところであらう。

3、クリュー・ハウスの秘密

イギリス情報省の役所がクリュー公爵によつて提供された下屋敷に置かれたので、「クリュー・ハウス」とはイギリス宣傳省の代名詞の如く呼ばれ、（ノースクリッフの代理人、副部長キャンベル・スチュアート中佐の著書「クリュー・ハウスの秘密」（註19）によつてその名を知られるに至つた）ドイツ側からその活動は蛇蝎の如く嫌はれてゐた。

クリュー・ハウスの活動を隱蔽するため、イギリスではその公式の名稱を、「英國戰爭傳導館」（British War Mission）と呼んでゐた。その顏觸れも左の如く實業、操觚界の錚々たる者を集めてゐた。

キャンベル・スチュアート（陸軍中佐、副部長）
デンビー伯（陸軍大佐）
ロバート・ドナルド（デーリイ・クロニクル紙主筆）
ロデリック・ジョーンズ卿（ロイテル通信專務取締役）
シドニー・ロウ卿
チャールズ・ニコルソン卿（國會議員）
ジェームズ・オクラディ（〃　右）
H・ウィッカム・スチード（タイムス紙外報部長）
H・G・ウェルズ
H・G・ハドソン（委員會書記）

クリュー・ハウスは宣傳物の製作部と配給部に二大別され、製作部はドイツ、オーストリー、ハンガリーの三部局に分れてゐた。

有名な社會批評家H・G・ウェルズが主としてドイツの宣傳指導を、タイムス紙外報部長のウィッカム・スチードと歴史家シイトン・ワトソン博士がオーストリー・ハンガリーを引受けた。非常に悪質で僞瞞的な誇大な宣傳文が臆面もなく、第一流の評論家、新聞記者、學者などによつてデッチあげられたのである。

4、ノースクリッフ卿の覺書

對獨宣傳の參謀本部ともいふべきクリュー・ハウスの政策を明らかにするには、ノースクリッフの覺書がある。これはノースクリッフがバルフォア卿に宛てたもので、對獨宣傳の目的、方途、意義などにつきかれ一流の卓見を述べたもので、イギリス側宣傳政策の基調をなすものであるから左掲することにする。

「余は貴官に左の一般政策をドイツに對するイギリスの、若くは聯合國の宣傳の基調として提出せんと欲す。宣傳は政策の一の行動形式であるから聯合國の確定した戰爭目的に合致しなければならない。

イ、勝利の希望を失はしめること

一、宣傳の目標は敵の戰爭及び勝利に對する意思を弱めることである。この目的のために聯合國の究極的目的と、聯合國が勝利から何を生み出さんと欲するか、を第一番に知らせる必要がある。これがドイツ人が最も關心を持つてゐる問題である。

勿論われ〳〵は聯合國の戰爭目的が單にドイツ國民に與へる效果のみによつて定まるものとは考へてゐない。しかし他面において、宣傳のために心にもない目標を掲げるが如きは宜しくはない。戰爭目的を適當な形式で發表するならば、ドイツにおける反戰勢力の强化に何らかの效果をあげ得るだらう。

ロ、經濟的に重壓を加へること

二、ドイツの國内狀態を語る情報中左の二點は當面の問題に重大關係がある。

1、全ドイツ國民が何よりもまづ戰爭の終熄を望んでゐると信ずべき多くの證據がある。かれらはわれ〳〵以上に疲弊して居り、戰爭に倦怠してゐる。ドイツ國民が現在の戰爭を續行するこ

とに默從してゐるのは、戰爭の續行こそ迅速なる平和をもたらす唯一の方法だといふドイツの指導者の言葉を信じてゐるからである。故にドイツがたとへ軍事的に勝利を得ようとも、戰爭を續行せんと欲する決意と正面衝突すること、及びこの理由により軍事的勝利はかれらの希望する平和をもたらす方法ではないことを、かれらに强調する必要がある。如何なる犧牲を拂つてもわれわれは假借なき經濟封鎖を續行する用意あることを知らせてやらねばならぬ。

2、これと並行してわれ〳〵は極めて重要なる他の目的がある。ドイツ政府は若し聯合國が勝利を占めたならば、それはドイツの永遠の滅亡であり、各人の家族が仕事を失ひ、金を失ひ、飢餓に瀕することを全國民に信じこませてゐる。これに對抗する手段としては、ドイツ國民に或はかういふ結果が起るかも知れないが、しかしこれを避けようと思へば、避けられるといふことを强調する必要がある。

ドイツ政府が、その公表せる他の歐洲自由國民を自國の支配下に置かんとする野望を拋棄せざる限りかかる結果が發生するかも知れない。しかしドイツ國民がその支配慾を斷念して聯合國の世界再建計畫に同意することによつて避け得るものである。

この1、2、の間には緊密な連絡がなければならぬ。1は恐怖の要素を持ち、2は希望の要素を持つものである。

ハ、文明擁護の標語を立てること

三、第一はわれ〳〵にとり何らの困難もない。われ〳〵はわれ〳〵の考が國民及政府の考と一致してゐるといふ固い信念を持つて仕事をすることが出來る。第二については貴官の指導と支持を得なければならない。從來聯合國の政策と戰爭目的は餘りルーズに規定されてゐたので、ドイツ人に理解させることが困難であつた。また明白な矛盾さへあつて、ドイツ人に素早く逆用されたことがあつた。のみならず、ドイツ文筆家がわれ〳〵の戰爭目的をかれ自身の場合と同樣に帝國主義的野心によつて動かされてゐるかの如く歪曲し、われ〳〵の戰爭目的の中に、過去の勝利に屢々隨伴した併合とか賠償とかがあるかの如く、誣ひることも可能であつたのである。

余は聯合國の眞の目的は、ドイツを打倒した後に、人間の豫見し得る限りの將來において戰爭の再發をなからしめるが如き世界平和を樹立することであると考へる個々の目標、たとへば白耳義の回復、アルサス・ローレンの解放、メソポタミヤとパレスタインに文明政府を樹立することなどの目標も又維持せねばならぬが、これらの目標は、國際政治を將來戰の禍根芟除を基調として

確立せんとする一般計畫中の部分問題として適宜に處置さるべきものである。

ニ、敵國內平和主義者に呼びかけること

四、かかる計畫の中で「自由國民聯盟」を創立する案が最も效果的である。ドイツにもこの創立原則を承認するならば、この聯盟參加を許すべきであらう。ドイツが聯盟に參加することは、原料封鎖に對するドイツの保障となるだらう。從つてわれ〳〵の媾和條件は、この聯盟にドイツが參加し得るための條件としても提出することが出來るのである。經濟的便益を享けるために、ドイツは政治的條件を承諾せねばならぬだらう。

この計畫が成功するならば、宣傳事業は極めて樂になる。なぜならば、われ〳〵の目標をドイツの穩健分子を或る程度納得させるやうな形式で提示する方が、單に敗敵に押しつける條件として提示するよりも容易だからである。

ホ、權威ある聲明を發表すること

五、この對獨宣傳も、聯合國各國政府が權威ある聲明を公表して支持してくれねば殆んど效果が擧らざるは明瞭である。さもないと眞の目的はドイツを欺いて棄權の媾和を受容せしむる手段であるとか、この目的が達せられると、これらの計畫は全然空文に歸して弱小化したドイツが世界制覇を目指すアングロ・サクソン聯合に抗しなければならなくなり、かくしてドイツは永遠に政治的劣等者の地位を甘受しなければならなくなるのではないかとの誤解を招く虞れがある。

六、かゝる聲明は、余の知れる限りでは、まだイギリス政府からも出てゐない。余が貴官に求むるところはかかる支持で、われ〳〵の背後に陛下の政府の支持があるとの固き信念を以て仕事に當らせて頂きたい。政府が聯合國と共同して、この問題を審議中であることでも知るを得るならば、これを知るだけでも、われ〳〵のやつてゐるより通俗的な仕事に有益な刺戟を與へ得ると思ふ。

ヘ、戰爭の責任を敵に押しつけること

七、余は「自由國民聯盟」の概念を具體的に發表せんとする試みが起れば、非常に大きな難關に逢着せざるを得ない事をよく承知してゐる。われ〳〵の仕事にとつては、かかる聲明を成るだけ近い中に發表されることが最も切實に必要である。

若しこの聲明をドイツが受諾すれば、ドイツは戰爭の終結後まもなく、新らしき國際社會に參加することが出來る。若しドイツがこれを拒否すれば戰爭を續行すべきであらう。ドイツ國民に對してこの國際社會に參加する權利はかれらが戰爭を續行する時間に比例する時間だけ、延引せざるを得ないことを明瞭ならしめねばならぬ。

余は前ドイツ植民地については、これらを如何なる軍事的、海軍的にも再びドイツの統治下に返すべきでないとの强き信念以外には、はつきりとした考へを持合せてゐない。大體論から言へば余の考へはかうである。聯合國のドイツに對する立場は、すべてドイツが戰爭の責任者であるといふ事實によつて一貫してゐる。從つて聯合國には媾和の前提條件としてドイツに現狀回復、賠償、擔保を要求する權利がある。

聯合國が合法的な自衞戰の結果ドイツからとつた領土は、ドイツ及びドイツの與國がその掠奪的侵入の結果占領したところの領土と同一の範疇に入れることは出來ない。一つの領土を他の領土と交換することは、いはゞ聯合國の道德的態度とドイツのそれとを同等にすることになるのである。從つてわれ〳〵が如何に仔細にドイツ植民地問題を研究したところで、その終局的解決は自由國民の戰爭聯盟たる聯合國の處理――若しもドイツが謹愼して、世界再建計畫に參加することが許された曉には――に一任せざるを得ないのである。」

第六章　獨英宣傳合戰譚

一、イギリス情報局の擴大

ノースクリッフの對獨宣傳には幾多の迂餘曲折はあつたが、休戰締結後、ノースクリッフの辭職と共に、「クリュー・ハウス」の活動も終つた。「クリュー・ハウス」は九ケ月間に七萬ポンドの少額の費用を以て絕大なる效果を收めて、聯合軍を勝利に導いたのである。

今回の第二次大戰が勃發するや、イギリスは早くも九月七日に內閣に情報省（豫算二十六萬ポンド）が急設された。大臣には英國放送協會（BBC）顧問會議々長ヒュー・マックミランがなり、事務總長ロード・バース、同次長ウォター・フィールド（大藏省出身）、新聞ハームス・ワース（ロザミア系ニュースの支配者）、對米啓發フレデリック・ホワイト卿（滿洲事變當時蔣介石の

政治顧問）のメンバーで組織された。

この外に諮問委員會が設けられ、委員には新聞界、政界、實業界の錚々たる名士が網羅されてゐる。この委員會の會長には前大戰當時對敵宣傳部長として活躍したキンベル・スチュアート卿が推されてゐる。

イギリス情報省の構成も左の如く四大別されてゐる。

一、新聞雜誌の檢閲

二、對內對外への啓發（對外は對米に主力を傾注して、アメリカを參戰へ誘導）

三、啓發資材の作成（映畫、ラジオ、文學、美術）

四、行政との聯絡

この四部門の中にまた幾多の課目が細分されてゐる。今回の英國情報大臣がラジオ關係の顧問であつたことを見ても、近代宣傳戰におけるラジオ戰の重要地位が看取されるわけである。

近代世界各國政府は輿論を支配したり、牽制したり、國民を誘導したりする方法を專門的に研究する機關を增設してゐる。しかして政府に對する提案、忠告、援助等を職業的專門の宣傳家に依賴する傾向にあることは注目に價する。

2、對獨攻擊の怪文書

イギリスは情報省の外に經濟戰爭省が設けられて、リースロス卿が事務總長に任命された。リースロス卿といへば、支那事變前期に蔣介石政權經濟顧問として中支に活躍した男である。イギリスが經濟戰爭省を設置したのは、近代戰における經濟（生產、資源、人口、食糧）等の地位を重要視した證據であり、前大戰の經驗に基き敵國經濟を攪亂し、飢餓封鎖により敵國を屈伏せしめんとする意圖のあることは明瞭である。

イギリスは前大戰當時、ドイツの賣國奴リヒヤールト・グレリング博士の「我が糾彈」を全世界に撒布し、ドイツの前ロンドン大使リヒノフスキー侯のドイツを攻擊せる回想錄を各方面に頒布して、文書によるドイツ攻擊宣傳に利用した如く、今日も亦前駐獨英大使ヘンダーソンがヒトラーと交涉した「英獨交涉の內幕」を暴露した文書を發表して、ヒトラーの野心を誹謗したり、またヒトラーの秘書であり、今では反ナチスと稱へてゐるヘルマン・セーシュニングの書いた「ヒトラーの怖れる書」"The Book that Hitler Fears" 等を各方面に頒布して對獨宣傳に躍起となつてゐる。

3、獨英のラジオ毒舌戰

これに對するドイツ宣傳省のゲッベルス長官の應酬、「ドイツの白書」を發表して英國の野心を暴露したり、イギリス・ファッショの元領袖であり、現在ではナチスの味方であるウィリアム・ジョイスをして、「英國の黃昏」William Joyce "Twilight over England" を發行して、對英攻擊の宣傳文書を世界各國に頒布してゐる。(現に大東亞戰以前、日本にも英獨兩國より各種の宣傳文書が頒布された。)

近代戰におけるラジオの持つ役割が如何に重要であつたかは、スペイン內亂のマドリッド攻防戰にもこれを看ることが出來たし、ポーランド首都ワルソウ陷落前後を通じての壯烈なるラジオ戰を見てもわかる。

「若しもこの世にラジオと飛行機と自動車がなかつたら、恐らくわれ〳〵は政權を掌握することが出來なかつたらう」とは、ゲッベルス宣傳相の述懷(ベルリンで開かれた第十四回ラジオ博覽會開會式の演說)である。電波を支配する者は世界を支配すると言はれる所以である。(註20)

大戰勃發後英獨兩國のラジオ戰は熾烈を極めたものである。英獨宣傳攻防戰においても、往昔の如く惡口罵倒を吐くかはりに、ユーモア交りに攻擊するやうに巧妙になつて來た。

イギリスの對獨文書攻擊一例として、キング・ホールの匿命でゲッベルス宣傳相を激怒させたキング・ホール事件などは、實に巧妙極まるものである。

「ゲッベルス氏は今ドイツでは最も不人望と承はりますが、もしドイツで氏を必要としないやうになつたら、飛行機でイギリスに飛んで來られるとよろしい。イギリスには氏に最も適當な職業が待つてゐます。それは何かといふと劇場の支配人です。宣傳相だつて劇場支配人だつて、正直に働きさへすれば、どつちも立派な職業です。」

皮肉たつぷりにイギリス流の警句を用ひて野次つてゐるかと思ふと、ドイツ軍占領地の北フランス、ベルギー、オランダ、ノルウェーに待機するドイツ軍の頭上に、空中から次の如き揶揄的宣傳ビラを撒いてゐる。

「ドイツ陸海軍將兵各位には本狀をもつて衷心より歡迎の言葉を申述べ候　慰安音樂はすでに用意これあり、また大仕掛な花火、廣大な海水浴場、蒸氣風呂及び數々の新計畫と近代設備はこゝに最高名譽を擔ふ賓客を鶴首致し居り候　右友愛に滿ちたる好遇の結果、名譽ある賓客は御歸宅相叶はざるやも圖り知れず、念のために申添候　頓首」

右は縦十三センチ、横十センチの葉書に「英國へ片道、一回有效招待券」と書いてあり「今夏まで有效」と赤インクで記してある。（十六・一・十八日ベルリン發　東京朝日）

4、ホーホー卿の對英放送

これに對するドイツ側もラジオ放送により幾多の應酬をしてゐるが、就中ツェーゼン局の「ホーホー卿」の對英放送は流暢な英語で、上品な皮肉たつぷりで有名である。（ホーホー卿は純粹な、イギリス人であつて、オックスフォード大學卒業生特有な訛りがあり、正體は誰であるかわからないが、前記の「英國の黄昏」の著者、ウィリアム・ジョイスであるといはれてゐる。）

「いかがです。皆樣。昔は『大英帝國は海を支配す』といふこともありましたが、今日世界の海を支配するのはわがドイツとなりました。その證據を申上げませう。わが潜水艦は何回でも水中に沈むことが出來ますが、イギリスの主力艦はたつた一度しか水の中に沈むことが出來ません。しかるに昨日、イギリス主力艦一隻は物の見事に沈沒しました。これはたつた一回しか沈めないことを身をもつて證據だてたのです。ところでこれを沈めたわが潜水艦は悠々と浮き上つて來たのであります」

優雅な英語での對英放送には流石のイギリス人も「敵ながら天晴な名放送だ」と折紙をつけてゐるのである。

このラジオ戰の外に文書によつてドイツがしきりに海外に宣傳してゐる白書（外交文書）はドイツを中心として各國と交換した公文書の刊行である。英國が如何にして各植民地を奪取したか、如何に印度を搾取したか、南阿を如何にして征服したか等、英國の假面を暴露した書物の英佛語版を作つて、印度、南阿その他の各植民地に發送して、かれら被搾取、被壓迫民族の蹶起を促さうとしてゐる。

5、ドイツの幽靈放送

英獨の宣傳戰はかくの如く熾烈となつたがゲッベルス宣傳相は、ドイツは一九一四年の世界大戰には、宣傳戰では敗れたが、今日では宣傳戰でも決して敗けないと豪語してゐるのである。

ヨーロッパにおけるラジオ宣傳戰は全く熾烈を極めてゐるが、今回の獨ソ戰において、決定的

勝利を博してゐるドイツも占領地向けロシア語放送では、しばしばモスクワからの奇怪な電波で妨害されてゐた。

獨ソ戰が酣になり、獨軍が怒濤の如くモスクワ進軍の最中の日であつた（昭和十六・十・十三日夜）。英國のBBC放送局が幽靈電波によつてニュース放送を妨害されたことがあつた。

十三日夜八時から十時まで英國放送局では、一般及び女子補助部隊向け放送を行つてゐると、太い男の聲でしかも達者な英語で、巧みな放送が聞え出した。BBC放送局と同じ電波を使つてゐた。

まづ第一聲に「BBC放送はアテにならない」といふ聲から始つて「チャーチル首相はどのくらゐユダヤ人から金を貰つてゐるかを諸君は知つてゐるか」「チャーチルは英帝國をアメリカに賣りとばさうとしてゐるのだ」「吾等はアメリカ政府の奴隷とはなりたくない」等の放送があつた。

BBC放送局からのニュースを受けとつてすぐさまそのあとから次の如き野次の幽靈放送が始つた。

BBC「ドイツはウクライナを壓迫してゐる」

幽靈「明日までお待ちなさい」

BBC「ソ聯の壞滅は決定的となつたとドイツは公表した」

幽靈「まさにそのとほりです」

BBC「英國機はフランスを空襲した」

幽靈「そして全機撃墜された」

BBC「英空軍はドイツを空襲して火災を起させた」

幽靈「それは君等の宣傳だ」

BBC「ニューファウンドランドから新部隊が到着した」

幽靈「可愛想な奴だ」

BBC「これでニュース放送は終りである」

幽靈「ヤレ〳〵助かつた」

以上のやうな怪放送を以てBBC放送を野次り倒した。そこで英國放送局は早速聽取者に對して妨害のあることを警告し、强力なる電波を以て沈默させたが、この放送は前記のホーホー卿の怪放送と同じく、硝煙をくぐつて飛ぶ交ふ電波の戰爭は愈々熾烈となつてゆくのである。

第七章　米佛の宣傳組織を覗く

一、大がかりなアメリカの宣傳

アメリカは世界大戰參戰後間もなく、大統領の名の下に公報委員會が設置された。この委員會は海軍省、陸軍省、國務省の各秘書官及びジョージ・クリールが加はつて成立した。このメンバーには內閣その他の會議、秘密機關の有力者が均等に任命された。公表上の委員會のメンバーは陸海軍兩省長官、國務省長官と委員長のクリールであつた。この委員會の最大の任務はアメリカ全土一億二千萬の國民を戰爭目的のために總動員することにあつた。

この組織下には多くの新聞記者、文士、評論家、畫家、寫眞師、辯士等が集められた。これらの組織員は多くの計畫を樹て、これを活字となし、繪畫となしてアメリカ人に呼びかけ、辯士は一齊にアメリカ全土に呼びかけた。その當時の活動振りをクリールは左の如く述べてゐるのである。（註21）

「公報委員會は、三十種類の興味ある小冊子を七ケ國語に印刷し、七千五百萬の復寫物を國內に撒布し、數百萬の復寫物を外國に送つた。大戰中四十五回の會合を行ひ、七萬五千の義勇奉仕者は五千二百の團體で働き、七十五萬五千五百九十回の講演會を開催した。七百人の飜譯者がアメリカに在る外國人向きの新聞記事に材料を提供し、ポスター、ウィンド・カードを一千四百三十八ケ所で製造し、また毎月十萬部の新聞を發行した。「星條旗の下に」、「アメリカの報復」等の映畫を製作して國外、國內に宣傳した。その他二十萬の大幻燈器を製造し軍事寫眞と繪畫を毎月七百種づつ檢閲した。當局の報告を傳へるために、海底電信、電報を夥しく使用し、特別郵便と特別寫眞とを外國新聞に揭載するために數知れず製造した。」

アメリカは國內宣傳に大童となり、敵愾心を昂揚させ、國民を對獨戰爭に集中させるべく、總動員したのであつて、社會的には名も知られなかつたクリール委員であつたが、ウィルソン大統領の後援があつたので、その仕事も活潑に行はれ、輝かしい成果を得た。

2、フランスの「新聞の家」の活躍

フランスは外務省や陸海軍省の代理機關を設置して、宣傳事業をその手に委ねた。そして宣傳や經濟その他の使命を帶びた最高機關員を續々海外に派遣し、政府の宣傳工作を充實せしめた。

大戰中に於いて最も必死の宣傳を行つたのはフランスであつたが、その規模や組織はその努力に必らずしも正比例したものではなかつた。フランスではその宣傳について幾多の半官半民や私的團體が各自に宣傳を開始した。即ち巴里商業會議所（六ケ國語による宣傳誌を發行し經濟宣傳を行ふ）、露佛通商通信所の協力による中立國關係委員會（小冊子、寫眞、葉書宣傳）、佛國同盟（秘密機關）、歷史教育國民協會（パンフレット、ビラ作成）、戰爭研究通信委員會（大學教授連を以て組織し、パンフレットを各國語に飜譯す）等の半官半民の團體や、討論協會、佛國外國親睦協會、佛國思想協會、佛國大學聯盟、カトリック協會、プロテスタント協會、佛國十字軍、佛國宣傳聯盟等の私的團體があつて、各分野において對獨、對中立國の宣傳を行つた。

しかもこれらの中でも最も大規模にして、中心的活動を行つた有名な宣傳機關は「新聞の家」"Maison de la Prese" である。「新聞の家」の活動について「戰爭における虛僞」の著者ボンソビーは次の如く述べてゐる。

「フランスは開戰三日にして戰時宣傳のため二千五百萬フランの巨費を支出した。この宣傳本部といふのが『新聞の家』である。パリーのフランソア街三番地の地下室のある五階建の家がそれである。そこにはいかめしい人々が右往左往する。トラックが着く。立派な自動車が停る。」

3、惡どい宣傳で敵愾心を煽る

「その二百に餘る部屋がとりもなほさず宣傳のため使用されるが、一番上の硝子屋根の部屋は寫眞繪畫室で、そこには木製の四肢を斬られた胴體や、腕や脚が轉がつて居り、眼をくりぬかれた人形などが立つてゐる。部屋の片隅にはグランド・オペラの背景畫家が、爆破されたフランスやベルギーの寺院、發かれた墓、荒廢した村落などの似せ寫眞の原書を描いてゐる。これらの寫眞や繪畫は謂ふまでもなく何れもプロパガンダの目的を達するために、全地球上の民衆に對して、ドイツ軍の慘虐に關するつきとめ得ない證據として送り出されるものである。……この建物こそ

は實に最も力強い虚僞の戰法で、前線後方から來たと稱せられ、創作せられたニュースの絶えざる源泉であつたのである。

かくて世界の正直なる民衆に對して、陰險ではあるが最も效果的毒素を放散したのである。戰爭中虚僞は一つの愛國的道德となつたのである。そしてこの虚僞は政府により、檢閲によつて强制され、それが敗戰毎に必要を感ぜしめられ、亦屢々それが利益であり、却つて名譽であると考へしむるやうにさへなつたのである。」(註22)

この「新聞の家」は最初外交部、軍事部、外國新聞の飜譯及び檢閲、宣傳部の四部から成つてゐた。外國新聞部は參謀本部の第二課、軍事情報部の指導下にあり、その通信班に屬してゐた。宣傳部は各中立國に對する宣傳材料、本、ビラ、寫眞、フィルム等の頒布に從事してゐた。これには前述の民間諸團體が參加し、一方多數の傑れた學者が協力したのであつた。

フランスが强敵ドイツを控へてゐた關係上、味方を欲することは非常なもので、特にアメリカに對する宣傳は至れり盡せりで、對米御機嫌取り政策に狂奔した。フランス軍に參加したアメリカ軍人を英雄化し、かれらを敍勳したりして大々的にアメリカに宣傳して、對佛援助に利用したのである。

第八章　ドイツの宣傳とその失敗

1、宣傳機關の不統一

ドイツにおける戰時宣傳機關は、純軍事的目的から發生した。情報、宣傳が軍事的諜報機關から出發したもので、多分に戰時的色彩が濃厚であつたことは、その組織と發展經過を見れば容易にわかる。

大戰直前の一九一三年に、ドイツ陸軍省は軍備擴充計畫と共に、同省内に新聞班を創設しようとしたが、議會から否決されてしまつた。この新聞班なるものが、今日の如き積極的宣傳機關ではなく、主として軍事の秘密漏洩防止を目的としたもので、新聞の檢閲などが主なるものであつた。

ドイツにおける宣傳工作は、各省に中心的統一がなく、各自思ひのまゝに宣傳を行つた。公式

の共同活動としては、「新聞會議」の會議にこれが見られるのである。一週間に二回乃至三回の會合を行つた。いはゆる常例新聞會議なるものに參加したのは、陸軍省、參謀本部、海軍省、師團司令部、聯隊本部、遞信省、內務省、大藏省、戰時食糧省、それに外務省が加はり、議長も順次交替制であつて、協調的な宣傳的效果は極めて稀薄であつた。

新聞會議とは別個に一九一四年十月十四日戰時新聞局が設立された。この戰時新聞局は三課に分かれ、第一課は國內課、第二課高等檢閱所、第三課が外國課である。これはドイテルモーゼ少佐が指揮して、後にニコライ中佐が擔任した。

戰時新聞局はドイツ新聞全國同盟及び出版業組合と協定し、新聞社に豐富なる材料を提供することになつた。しかし戰時新聞局は軍事事件の處理に全力を注ぎ出してから、新聞界と統帥部とは政治問題に關して衝突を生じ、エルツベルガーなども極力軍部の政策に反對した。

2、檢閱の無方針

新聞檢閱に關しても政府において何らまとまりたる方針なきことが曝露し、新聞紙は激しく政府部內の不統一を攻擊し、內務省は議會において、その責任を參謀本部に轉嫁し、新聞紙はまた二派に分れて相爭ふに至るといふ支離滅裂ぶりであつた。

ドイツ外務省の宣傳部なるものは、僅かに印刷物、寫眞、繪畫の類を頒布するに過ぎず、しかもこれらのものは、說明もドイツ語にてなされ、偶々外國文の宣傳文もなきにしもあらずであつたが、一見してドイツ人の作つたものであるのがわかる程度のものであつた。宣傳の秘訣は宣傳臭を帶びないことにあるにも拘らず、ドイツの宣傳は極めて宣傳臭きものであつた。(註23)

3、軍部と政府の軋轢

軍部と外務省、政府と議會の摩擦と軋轢は、戰爭が擴大するにつれ、層一層激化した。一九一六年ベートマン・ホルウェッヒ宰相によつてなされた講和提唱並に、エルツベルガーによつてなされた講和決議の如きは、痛く軍部の激昂を買つたのである。(註24)

ヒンデンブルグ及びルーデンドルフも新聞の統一、輿論の指導の必要を力說したが、宰相は政黨の板挾みとなり、獨立した宣傳省を作ることを拒むといふ始末であつた。

參謀本部は、イギリスの對獨宣傳機關が整備し、その人物の如きも第一流の名士を据え、ノースクリッフを擧げて「プロパガンダ」運動を統轄せしめ、ロバート・ドーナルドを中立國に對する宣傳大臣に、ラッヂアード・キップリングを內地の宣傳大臣に當て、宣傳のために有能なる三大臣を設けるに反し、ドイツが僅かに外務省の一課長を以てこれを當らしむる怠慢を責めたのであるが、ヘルトリング宰相及び議會はこれを軍部の政治的干與となして反對したのであつた。

ヒンデンブルグ元帥も宰相に手紙を送り、「政爭に干與するのは余の夢想だもせざるところであるが、新聞紙が軍隊の士氣を挫折するが如き言論を公にし、議會が時局を認識せず政爭にのみ耽るのは遺憾である」と警告を發した程で、宰相も宣傳機關の統一を試みんとしたが既に時期を失してゐた。

4、ドイツ敗戰の眞相

ドイツの宣傳方針が如何に無方針で、支離滅裂であつたかを、フォルクマン中佐はかれの著書（註25）の中で左の如く述懷してゐる。

「ドイツの戰時宣傳が無方針で、支離滅裂であつたに反し、協商側の宣傳方法は極めて集中的なるものであつて、大なる效果を收めた。協商側にあつても組織的に國民の氣風を振起することの重要なことを、戰爭の初期にはまだ十分に認めて居なかつたやうである。

しかし協商諸國にあつては、國の內外にあつて宣傳のため活動して居つた幾多の國體を、間もなく組織的に統轄し、鞏固なものに結合するといふ、少なくとも眞劍な努力の必要が認められるに至つた。まづ第一に十分鞏固な組織制度は、フランスに依つて立てられた。しかし間もなくイギリスはこの方面にあつて、フランスを凌駕するに至つた。すなはちイギリスの宣傳省は、漸次中立諸國並にその聯合諸國に對して、非常な勢力となつた。

外國宣傳の仕事は、イギリスの新聞王ノースクリッフ卿の手に在つた。かれはその事業を深い心理的理解と、稀に見る熟練とを以て遂行し、全世界にドイツに對する憎惡心を喚起した。かれの宣傳戰は、啻に中立諸國に對してばかりでなく、直接中歐同盟諸國に對してもなされた。ドイツ、オーストリー・ハンガリー、ブルガリヤ諸國に對してそれぞれ特別分課を設け、それらの國內に手先を擴げて間隙のない網を張り、又中立國就中スイスにおける數多き仲介的支部に依つて僞亂暴にして國民の意氣を沮喪させるやうな宣傳の毒を、衰弱した中歐同盟の諸國民中に注ぎ

こんだ。

一九一八年の夏、軍事的行動と並行にドイツに對する宣傳的攻勢が始まつた。この宣傳の攻勢はありとあらゆる手段をつくしたもので、就中宣傳ビラが巧みに利用された。かかる宣傳ビラは飛行機及びその他の手段によつて、ドイツ戰線だけでも日々約十萬枚の多數が撒布された。

敵の宣傳が全體としてどれほどの效力を有したかを見ることは困難である。しかしながらこの宣傳が戰爭の終局において、非常な影響を及ぼしたといふことは、間違ひのないことであらう。

就中この宣傳の毒に感染し易かつたのは、平和主義者或は共產主義者として、當然國家主義的企畫に對して否定的態度をとつて居つた連中であつた。政府當局の微力であつたことは、恐らく何よりも激しく宣傳の方面において、禍の結果を釀したやうである。なるほどこの方面にあつても、ドイツは協商諸國に比べて事情遙に困難なものがあつた。しかし事情が困難であればあるほど、益々この方面は鞏固な組織的統一を必要とした筈だ。かかる組織的統一を閑却して顧みなかつたことは、當局の重大責任である。」

第九章　大東亞戰下日本の對外宣傳

1、米英のデマ宣傳

大東亞並に歐洲において敗戰に次ぐに敗戰を重ねる米英並に重慶が、必死となつて努力してゐるのはかれらの僞瞞と虛僞に滿ちたデマ宣傳である。世界各方面に亘つて根强き通信網を握つてゐる米英が、優勢なる地位を利用して如何に懸命に宣傳に大童となつてゐるか、重慶政權がまたその尻馬に乘つて如何に宣傳に躍起となつてゐるか。如何にわが國が米英の逆宣傳を粉碎し、積極的な攻擊宣傳をなしてゐるかにつき、鳥瞰圖的な觀察を試みて見よう。

歐洲戰爭勃發以來、大東亞並に歐洲に於ける每日の戰況ニュースに、かれらは虛僞の報道を行ひ、國內を僞瞞せることは勿論、いかに第三國に威信をつなぐかに汲々としてゐるかは贅言を要しまい。

アメリカなどは眞珠灣海戰以來、今日に至るまで全面的敗戰にも拘らず、珊瑚海海戰、ミッドウェー沖海戰、ソロモン海戰をアメリカ勝利の三大海戰と呼號して、宣傳に大童になつてゐる。自國の損害をひた隠しに隠し、右三大海戰の結果、日本の艦隊勢力が殆んど戰鬪不可能に近い損害を受けたと宣傳し、ワシントンの米海軍省は、各種艦別に日本艦船の沈沒、破損の隻數を荒唐無稽なる數字を掲げて公表し、日本艦種にもない「ヒラヌマ」などまで掲げて、世界識者の嘲笑を買つてゐる。

2、樞軸國離間に躍起

米英ソ間の提携が破綻しつゝあるにも拘らず、自國民を慰める一方法として、日獨伊樞軸國間の政府對國民乃至軍官民の間の離間の宣傳に躍起となつてゐる。日本に對するデマ宣傳の數々は笑止千萬の至りであるが、念の入つたものになると、四月十八日米機の東京空襲後、東條首相が爆擊箇所を視察に行つたところ、建築中の高層建物の上で仕事してゐた勞働者が、東條首相目がけて金物を投げつけたが、當らなかつたなどといふ出鱈目なニュースを揑造してゐる。これなどはデマを越えてヨタに近いものである。

近頃に至つてかかるデマ宣傳は、一億一心鐵の如き日本國民の團結を破壞し得ないのみならず却つて虚僞の宣傳のため、米英自國民の對日樂觀論を醸成するおそれありとなして、軍官民離間を企圖する宣傳は全く姿を消してしまつた。

「日本人は國家のためなら、進んで身命を賭することを平氣でやる人種だ」と言つたやうな評論が現はれて國民の自覺を促がすやうになつて來た。アメリカのみならずイギリスにおいても、元ロンドン・タイムス紙東京特派員ヒュー・バイアスもその近著「敵國日本」の中で、日本國民の團結力を率直に認め、對日樂觀の危險を指摘してゐる。

前駐日アメリカ大使グルーも歸國後、各方面における演說において、對日再認識を說き日本人の愛國心の熱烈なること、士氣の旺盛なること、上下一致の團結力の强固なること等を述べてアメリカ國民の樂觀論をいましめてゐるなどは、そのよき例證の一つである。

3、呆れ果てた逆宣傳

米英の獨伊に對する國內攪亂宣傳はまた念の入つたものである。獨伊離間工作としてイタリアの單獨講和說を揑造したり、占領地域に於ける獨伊軍隊の衝突のデマを飛ばしたりしてゐる。戰勝獲物の割前について、日獨伊間に必らず衝突が起るであらう等と種々なる臆說を揭げて日獨伊間の離間工作に躍起となつてゐる。

ムッソリーニ首相が得體の知れない病氣となり、廢人同樣になつたとの報道を飛ばせたり、ヒトラーとドイツ軍部の確執の揑造記事を揭げたり、ドイツを追ひ出されたユダヤ人の、ドイツ國內亂脈などを誇大に宣傳してゐるなど笑止の至りである。

人道主義、自由主義は米英の一手販賣である。ドイツの歐洲における占領地人民殺戮を揑造したり、ユーゴースラヴィア、ベルギー、オランダ、デンマークなどの占領地區に於けるドイツの官憲對人民の衝突事件の日常茶飯事の事件を「噴火山上の歐洲」などと大々的に報道してゐる。

日本軍は支那その他南方諸國の人民を殺戮しつゝあり、かかる行爲は非人道の甚だしきものなりと揑造記事を揭げ、自國民の士氣の鼓舞に努め、敵愾心の誘發に大童となつてゐるのである。

その他外交技術に關する宣傳、例へばドイツ對ヴィシー政府、日本對ソ聯、樞軸國對南米諸國をめぐる老獪なる宣傳工作は、實に油斷のならないものがある。

4、嘘八百の重慶宣傳

米英の尻馬に乘つて對日宣傳に大童になつてゐるのが重慶である。「白髮三千丈」と言ひ、「鹿を献じて馬」と言ひくるめることが宣傳の要諦と心得てゐる重慶の宣傳は、嘘八百で滿ち充ちてゐる。

馬脚を現はすやうな宣傳は、却つて逆效果を招來するにも拘らず、重慶では相變らず鐵面皮の嘘八百を並べたてる。

大角大將の飛行機の遭難を重慶側の撃墜だとヨタを飛ばしたり、宇垣大將が暗殺されたと嘘を吐き、丸ビルより退出の女子群の寫眞を揭げ、「日本は事變により男子不足を來たし、全國の七五%までは女子從業員である」と逆宣傳してゐる。重慶側の嘘八百の逆宣傳には際限がない。

軍事的宣傳においても連戰連敗にも拘らず、一度かれらの宣傳にかかれば、敗退は「戰術的退却」と稱し、日本軍の戰線整理は、重慶側では「失地回復」と稱してゐるのである。

虛僞を事實らしく宣傳するのが重慶の常套手段である。蔣介石の從來行つて來た宣傳方法はソ聯の宣傳技術を加味して、政治、外交、軍事的に教育し訓練して來た。その「宣傳教育要綱」の中に左の如く訓示してゐるのである。

1、人心に合致せしめ特に群集心理を利用することに努めること。
2、宣傳は被宣傳者の直接利害に關することを必要とする。
3、宣傳には眞相を傳ふることを原則とする。特に我に有利なる事實を宣傳すること。
4、宣傳には將來を約束せざることを必要とする。
5、宣傳は相手の意表に出ること。
6、宣傳は攻擊的にして逆宣傳の利用を怠るべからず。
7、宣傳は一時的ならざること、而して一定の目標を探究し、これに向つて熱誠なるべし、且つその手段方法は常に嶄新なるを要す。
8、宣傳は簡明にして寸鐵人を制すが如きものたるべし。
9、不確實なる宣傳はなさざること。却つて敵に逆用さるる虞あり。
10、宣傳は統制部と常に密接なる連繫を保ち、常にある要點に向つて主力を傾注するを要す。
11、宣傳は具體的なることを要す。

次ぎに重慶側の宣傳陣營を一瞥することとする。重慶側の宣傳陣營は、イギリスの退却に代つて全面的にアメリカが重慶を支配するやうになつて、重慶內部の親英派の羽振りも色褪て來たが一人ロンドン大學出身の王世杰のみは依然として宣傳部長の重職に納つてゐる。かれはロンドン大學出身だけに英語も話せるし、パリー大學の法學博士でフランス語も出來る。北京大學法學部長、國民政府法制局長、ヘーグ國際仲裁裁判所判事等の經歷の持主で、法律論をひねくりながらもつともらしい嘘八百を並べるのは朝飯前である。

王世杰の左右兩翼に宣傳部副部長に潘公展と董顯光がゐる。何れもジャーナリスト上りだがC團のメンバーである潘公展は、志士的な熱血なところもあるが、董顯光は別名をリントン・トンといはれるだけあつて生粹の親米派である。コロンビア大學に學び、ニューヨーク・タイムスやイヴニング・ポストの米國新聞記者を振り出しに國民黨の宣傳部副部長になつた男である。この外宋美齡、宋子文、顧維釣などの名を擧げねばなるまい。

X・G・O・A（中央廣播電臺）X・G・O・Y（中國國際電臺）にダイアルを合はせると、盛り澤山の嘘八百の電波放送がきこえて來るがその中に流暢な日本語を使用してゐる女がゐる。或は祖國に弓を引く日本女性が重慶に買收されたのであらうが、鷄鳴狗盜の手合ひを集めて世界を欺き、米英の尻馬に乘り、支那四億民衆を塗炭の苦みに陷れる重慶側の宣傳は飽くまでこれを破摧せねばならぬ。

5、日本の强力な聲の爆彈

然らば米英重慶側の敵國の宣傳に對してわが宣傳陣營は如何なる活動をなして來たか。これが檢討は奥村情報次長の說明が最適當と思はれるので左に揭げることとする。（註26）

同氏の所見は大東亞戰爭下武力戰と並行して熾烈に行はれつゝある、わが國對外宣傳とその反響を說明したものである。

戰爭と宣傳とは密接不可分の關係にあつて、戰爭目的完遂の成否は懸つて對外宣傳對敵思想の構成如何に存するとまでいひ得よう。政府においては開戰と同時に活潑且周到に啓發宣傳を國の內外に展開して來た。

第一次世界大戰當時には存在しなかつたラジオ及び無線通信といふ新しい武器は、今次歐洲大戰更に大東亞戰爭において、目覺しい活躍をなし、敵に對しては姿なき尖兵となり、强力な聲の爆彈となつて、敵の心臟部に飛び込み敵の抗戰意志を打碎き、敵を解體せしめるといふ大きい役割を演じてゐる。

作戰と呼應して果敢に行はれる對敵電波戰は、武力戰に劣らざる效果を發揮し、作戰を有利ならしめてゐる。また前大戰においては、對外宣傳は主として海底電信によつて行はれたが、英國がドイツに對して宣戰を布告したその翌日、ドイツの所有してゐた海底電線は、英國によつて切斷され、これがドイツの致命的打擊となり、獨軍は殆んど領土を侵されず、決定的敗退のないまで終つたが、海底電線を敵に切斷されたドイツの對外宣傳は全く不可能になり、また外國からの情報蒐集の途も斷たれ「ドイツは宣傳戰のために敗れた」といふドイツの言ひ方は決して泣言ではなかつた。

强剛獨軍を最も惱ましたものは、英軍のタンクでもまた米國の飛行機でもなく、それは英國の

バラ撒いた宣傳であつた。然るに前大戰後出現したラジオ及び無線通信は、その獨特の性能の故に最も强力な對外宣傳戰の武器として認められ、列國は擧つてこれを利用し、これが擴充に狂奔するに至つた。實に前大戰と今次大戰の大きな相違は「有線から無線へ」の大變化である。

6、活潑なる對外宣傳

大東亞戰爭に關する我が大本營發表はいふまでもなく、米英の內情も濠洲や印度の情勢も歐洲の戰況も中立國の動向も總て無線により刻々に報道されてゐる。ハワイ大空襲や英艦プリンス・オブ・ウェールズ號沈沒の歷史的寫眞が、海陸ともに直接連絡のない歐洲や米國に渡り、各國の新聞を飾つてゐる。

列國は對外放送に主力を注ぎニュース放送のみならず、ニュースと並んで種々樣々な政治的謀略的放送を行ひ、世界の空は文字通り火花を散らす電波戰の戰場となつてゐるのである。わが日本は滿洲事變の直後から夙に今日の國際電波戰を豫想して、海外放送の研究をなし、これが實施の準備をしたが、今次大東亞戰爭が勃發するや、米國、比島、マレー、タイ、蘭印、濠洲等の大南洋に對し、作戰と呼應して活潑な對敵及び第三國宣傳を行つてゐる。

大東亞戰爭の火蓋が切つて落されるや、豫ねて計畫されてゐた方針に基き、情報局では大本營と密接なる連絡の下に、わが海外放送はその全機能を動員し、大東亞戰爭の目的達成に向つて作戰外交と密接に呼應しつゝ、活潑なる大思想戰を展開し、米英の放つデマ放送を片端から粉碎し敵國深く聲の爆彈を叩き込むと共に、第三國に對しては堂々わが公正なる主張と正確なる事實の報道に努めて來た。わが海外放送は今次戰爭が米英の侵略戰爭と異なり、アジアを米英の鐵鎖より解放し、八紘一宇の皇道に則る東亞の新秩序を樹立せんとする崇高なる聖戰である旨を反復說明してゐる。

7、ABCD放送陣擊破

十二月八日の大詔は海外放送により、謹んで全世界に放送され、波濤萬里母國を遠く離れて、第三國に在住するわが同胞は、感慨無量感激の涙を以て聽取したのである。議會における政府の聲明や、大本營發表などは各國語により全世界に向けて、遂一放送され、刻々のニュースの外に

情勢に卽應して、或時は直接敵國軍隊に呼びかけ、また或時は敵國內の民衆に呼びかけて來た。香港、フィリッピン、マレーの作戰中にはこれを戰線にある敵軍隊に呼びかけた。ジャワ作戰の際にも東京から敵國民に呼びかけ、抗戰の無意義を說き敵の降伏を早からしめた事實もある。

ビルマ民衆も東京放送を競つて聽き、現にラジオを通じて、日本の眞實を理解し、皇國に協力しつゝある。わが赫々たる戰果と共にABCD對日電波包圍陣は、その一角より崩れ始め、香港放送局先づわが手に歸し、次いでペナン放送局、クアラ・ランプール放送局、昭南島放送局、マニラ放送局更にバタビヤ、バンドン、スラバヤ、ラングーン放送局には日の丸の旗が翩翩と翻つてゐる。これら對南方放送局はわが占領下に更生し、東京放送と呼應して今や大東亞共榮圈建設の喜びを日夜放送してゐる。

8、積極的な對米宣傳

さて米國は眞珠灣敗戰以來益々深まる敗色を糊塗するためにデマ放送に憂身をやつし、虛僞宣傳に狂奔してゐることはまことに淺ましい限りである。眞珠灣の敗戰についても最初米當局は、飽くまでこれを國民の耳目から隱蔽しやうと計つたのであるが、わが對外放送によつて米國民が眞珠灣敗戰の眞相を知るに及んで、これを隱しきれなくなり、遂に兜を脫いで滾々眞珠灣において蒙つた自國の損害の一部を發表するに至つた。

またバタアン半島戰鬪についても、當時極力これを隱蔽または揑造し、「米國は反擊に轉じ日本軍に大損害を與へた」等と出鱈目なニュースを連日放送し、司令官マッカーサーを「世紀の英雄」に祭りあげて、米軍の勇戰をまことしやかに傳へ米國民及び第三國人を欺かうとした。司令官マッカーサーが濠洲に逃亡した際も、「豫定の行動」であるといひ、マッカーサーに代つた司令官ウエンライトがコレヒドールに逃げ込んだ時も「一時的敗退」と放送した。

しかしわが海外放送は假借なく敵側宣傳の欺瞞を衝いてゐるので、米軍慘敗の事實は當局必死の隱蔽策にも拘らず、その度に白日下に露呈されてゐる。これも米國宣傳放送を物語る一例である。珊瑚海海戰の戰況については、わが大本營が確たる戰果と共に、わが方の損害をも率直に公表してゐるのに對し、米當局は自己の損害をひた隱しに隱し、日本軍に與へたと稱する出鱈目な戰果のみを大々的に宣傳し、珊瑚海で恰かも大勝利を博したかの如く宣傳してゐたが、日本からの海外放送により珊瑚海海戰の眞相を物語るニュースが、濠洲方面から南米や歐洲に續々と送ら

れ、堪り兼ねた米當局は遂に、米軍の損害を發表せざるを得なかつた。

しかも眞相の發表が國民に與へる衝動の大きいことを惧れた米當局は、損害の一部を發表したに過ぎず、この期に及んでも猶眞相の全部を國民の耳目から覆ひ隱さうと企んでゐるのである。またわが軍のアリューシャン攻略及びミッドウェイ沖海戰についても、米國の放送は例によつてありもしないデマ戰果を作りあげ、勝つた勝つたと大騷ぎし、軈てわが軍上陸の事實が知れ渡るに連れ、前後矛盾する放送が飛び出し、ワシントン海軍省は米軍はアリューシャン諸島において、日本軍と目下交戰中であると述べるに至り、面目を失つた。

米國放送局は已むを得ず、「日本軍の上陸したのは恐らく無人島であらう」と放送したり、「天候が惡かつたので、今迄判らなかつたのだ」等の自家撞着の言辭を弄し、自ら馬脚を露はした。

9、帝國の理想と理論に屈伏

さて最も笑止千萬と思はれることは、米國の放送が、わが日本の大東亞戰爭における高き道義的世界觀に兜を脱いで、わが方の理想と理論を借用し始めたことである。例へばウェルズ國務次官はさきに南北戰爭戰死者記念日に際し、アーリントン墓地において次ぎのやうに放送した。

「今次戰爭はまさしく國民の戰爭であり、地球上のあらゆる國民の權利を保證するための戰爭である。今次戰爭以前の世界は不平等と憎惡に充ちた世界であつた。戰後われ〳〵の當面する問題は生產ではなく、世界の富の公平の分配の問題である。それと共に全世界において從來搾取され抑壓され來たつた國民の解放を目的としなければならぬ。米國は世界の新秩序を求めるものである」と。アーリントンの戰歿兵士の靈魂はさぞかし苦笑したことであらう。

比島における米英主義の欺瞞政策はどうであつたか。中國に對する米國の行動と侵略主義は、中國人が最もよく知つてゐる筈である。

現實に眼を蔽ふて、ただ白々しい美辭麗句をもつて自己の貪慾な利己主義と侵略主義とを糊塗せんとする敵側宣傳の欺瞞性は斷乎許す譯にはゆかない。

10、海外放送とその反響

わが海外放送は日夜その活動を續けてゐるが、左にその二、三の反響を紹介することにする。

日本からの放送に戰々兢々たる濠洲ではカーティン首相が、日本の放送に驚くことなく冷靜を持するやうにと國民に呼びかけ、また濠洲法相は次ぎの樣に述べて狼狽振りを暴露してゐる。

「最近東京放送から見て日本の第五部隊が、濠洲內で大活動してゐるのではないかとの懸念が生じ、濠洲政府は濠洲から日本へ情報を送るために使用されてゐる手段につき、目下調査中である。しかし濠洲政府は近くこれらの敵の第五部隊を摘發し、かれらを封殺することになつたから東京ラジオはさぞ困ることであらう」と。鳥の羽音にさへ全軍崩れ立つ譬にも似て、まことに滑稽千萬である。

ビルマに對して行つてゐるわが海外放送は、ビルマ作戰中に大きい反響を呼び起し、ビルマ民衆はラジオを通じて日本の大東亞戰爭の目的を理解し、皇軍に協力し、ビルマ獨立に向つて勇躍してゐる。英國情報省東洋通信員はニューヨーク・タイムスに「日本からの放送によりビルマ國民は今や熱烈なる愛國心に燃え日本と協力し、日本に絕對の信賴を寄せてゐる」と書いてゐるのである。

次ぎに岐路に立つ印度に對しては列國の宣傳放送戰は火花を散らし熾烈を極めてゐる。英國BBC、重慶放送等が懐柔と恫喝の兩刀使ひを以て執拗に印度に呼びかけてゐる。これに對しわが海外放送は米英の印度政策を完膚なき迄に摘出すると共に、英國の戰爭目的は植民地解放の防壓にあり、英帝國主義は自己の安全のためにのみ戰ひつゝあること、印度國民はこの際英の道伴れとなつて印度を自ら破壞するが如き愚を冒すべきでなく、一致團結して英と抗爭し、英人を印度から驅逐すべしと反覆力說し、日本の今次戰爭目的は東亞において、英米より搾取され來つた被抑壓民族を解放する聖戰である旨を、東條總理大臣の數度に亘る聲明を基礎として力强く呼びかけてゐる。

この日本からの印度向け放送に對して、ロンドンのデーリー・ヘラルドは斯く書いてゐる。印度に對し今や英國は思ひ切つた政策に出ない限り、英國は印度國內に澎湃として起りつつあるアジア人のアジア建設といふ日本からの放送の反響に對處し得ないのである。英國の支配を脫したいとのみ考へ込んでゐる多數の印度人に對し、日本からの放送は大きい影響を與へてゐる。わが海外放送の反響は頗る大であつて、日本の放送は今や世界を壓倒し、世界の言論を指導しつゝあるのである。

以上の如くわが國の對外宣傳は赫々たる戰果の擴大と共に、益々積極的に活動してゐるのである。

る。尙大東亞戰爭の進展に照應して、政府は米英その他の敵國に對する宣傳放送の强化を圖り、今回〇〇キロ短波送信機一臺の完成を見たので、去る十二月一日より對敵放送を全面的に擴充した。

すなはち新送信機の完成により、わが對外放送放信機は〇〇キロ、〇〇キロ各〇臺が整備され「同時二方向二波長放送」と同一地域に朝夕二回の放送が可能となり、從つて放送時間は著しく增加した。一方放送方向は新たに北米西部、同東部、南米、インド、西南アジアの四方向を增設して對敵放送の完璧を期してゐる。使用國語も日、獨、伊、英、佛、西、葡、支那、マレー、オランダ、ビルマ、トルコ、イラン、アラビア等二十二ヶ國語を增加されて活潑なる對敵宣傳を開始してゐるのである。今やわが對外宣傳は武力戰と相俟つて、敵米英陣を壓倒し、世界を指導してゐるのである。

第十章　むすび

1、宣傳機關を擴大せよ

近代戰における宣傳戰が如何に重要な地位にあるか。第一次世界大戰當時、ドイツは如何にして宣傳戰に敗れたか。列强の宣傳組織とその運用並に今次大戰に於ける米、英、獨、重慶並にわが國の宣傳戰等につき、われわれは概觀的な檢討を試みて來たのである。

大東亞戰並にこれと不可分關係にあるヨーロッパ戰爭も、長期態勢を執りつゝある。戰爭が長期に亘れば亘るほど、宣傳の重要さは益々增大する。眼に見えぬ攻防戰の武器としての宣傳戰は非常なる威力を揮ふであらう。

然らばこの宣傳戰に對するわが國の陣容は果して如何であらうか。從來の內閣情報部が內閣情報局に擴大されたのは、內外に對する國策宣傳機關を重要視する一進展とも見られるのである。その後における日本を繞ぐる內外情勢の激變は、情報局の現機構を飛躍的に擴大强化するの必要に迫られてゐるのである。

「國策遂行の基礎的情報、內外報道及び啓蒙宣傳に關する各官廳事務の連絡調整に關する事務並

に各官廳に屬せざる情報蒐集、報道及び啓蒙宣傳の實施に關する事務を掌る」といふ情報局の任務は、現在の情報局機構で最大限までの活動を續けてゐるのである。

しかしこれを效果的に遂行するには、現機構を更らに擴大强化せねばならぬ。各國はそれぞれ特有の政治組織を持つてゐるのであるから、諸外國の宣傳組織をそのまゝ模倣する必要のないことは勿論である。

國策宣傳の中樞機關は、國家として實現し得べき最高機關たらしめよといふのである。盟邦ドイツの宣傳相ゲッペルスが、前後十年に亘つてその重要任務に當つてゐるのを見ても、宣傳が如何に困難にして且つ重要なものであるかが認識されるのである。

國內の啓蒙宣傳も重要であるが、戰時宣傳の核心をなす對外宣傳の場合には、宣傳政策の擔當者は、自己の責任において、その創意を敏速に活動させることが切望される。換言するならば國家の宣傳政策は、國務大臣の責任と見識と自信とにおいて、迅速活潑に積極的に行はれねばならない。卽ち當然の歸結として宣傳省乃至情報省の設置が要請されねばならぬ。現在の宣傳機構を擴大强化して、宣傳省乃至情報省を設けよと主張するのである。

2、宣傳の重要性を認識せしめよ

國策宣傳の擔當者は、戰時における宣傳の重要性を十分認識して、挺身事に當る情熱と氣魄を持つべきである。各省大臣や官僚も同じであるが、從來のやうな八面玲瓏として、軍部の御機嫌を取るやうな明哲保身の立身出世主義の官吏道は更新すべきである。さて現在對內外宣傳統合機關として、旣に情報局が設置せられて、情報、宣傳の統一を圖つてゐるが、その他大政翼贊會宣傳部、總力戰研究所、國防研究諸團體等を總動員して、國民經濟生活の安定を圖り、社會不安を一掃し、國內の思想を統一し、敗戰主義を克服して、各種デマを排擊する爲の運動を起さねばならぬことは勿論である。

國內の宣傳機關たるラジオ、新聞、雜誌、パンフレット、リーフレット、ポスター、映畫、演劇等を總動員して、聖戰の眞意義を認識せしめ、前線將兵の志氣を鼓舞振起せしめると同時に、銃後國民の擧國的支援を求めしめることの大切であることは言を俟たぬ。

國民の志氣を鼓舞し、前線銃後を感銘奮起せしめた一例を映畫及び軍歌にとつて見ても、蓋し

その效果の偉大なることがわかる。映畫においては航空兵の勇戰を物語る「燃ゆる大空」、猛牛戰車の奮戰を描く「西住戰車長傳」、從軍看護婦の眞姿を描く「大地に祈る」、さては「ハワイ、マレー沖海戰」の映畫、「ジャワ作戰」、「ビルマ作戰」、「フィリッピン作戰」の如きは多大な感銘を國民に與へた。尙ほ愛國行進曲、國民進軍歌、愛馬行進曲、大東亞決戰の歌、米英擊滅等の軍歌も砲煙彈雨の前線においても、產業戰士の銃後においても、國民志氣を鼓舞した。かかる國策の線に沿つた文化宣傳機關による國民精神の昂揚は益々强化せしむべきであらう。

3、必勝の信念を堅持せしめよ

言論思想の指導に從事する思想家、教育家、宗教家、評論家達は時局認識を說き、萬民補翼精神を闡明し、戰時國內對策を研究し、理論と實踐の一致を期し、銃後國民に必勝の信念を堅持せしむべきであらう。

更らにまた國民の中堅を以て任ずる在鄕軍人は、軍人精神の實行者として、歸還將兵は尊き實戰の體驗者として、共に「戰陣訓」にあるが如く、率先躬行して國民に範を示し（本訓其の二第五）皇國に對する不動の信念を以て、敵の宣傳僞瞞を破摧するのみならず、進んで皇道の宣布に努む（本訓其の三第四）べきであらう。（註27）

政府と議會の軋轢（翼贊會豫算問題を繞ぐる議會の論爭の如き）官廳と民間の摩擦（經濟統制問題を繞ぐる商工、大藏、遞信省對民間經濟團體の論爭の如き）等は出來る範圍にこれを回避し、敵性國家に國內分裂抗爭の逆宣傳の間隙を與へざることも必要であらう。

蔣介石政權並に敵性第三國は、日本國內の經濟崩壞を期待し、食糧難の民心不安を宣傳し、政治的分裂を企圖する等思想謀略宣傳に攻擊を集中するに對し、國民は益々結束を固め、聖戰貫徹に邁進すべきであらう。

4、責任ある指導政治

「われらの最も警戒すべきは、戰鬪機よりも、爆擊機よりも、落下傘部隊よりも、英米人等が、巧みにかれら一流の宣傳術を利用して、わが三國同盟（日獨伊）を崩壞せしめんとする惡謀、毒素」（註28）を警戒して、離間中傷策を封ずべく、時局講演會を開き、或は小冊子頒布を利用して

國民に移りゆく世界動向の適正な知識を與へて、政府は國民の心から燃えあがる積極的な協力を求むべきである。

支那事變勃發以來內閣の更迭すること三、四に止らず、政情安定せざるの感あり、心ある者をして衷心憂ひしめたが、東條內閣の成立を見大東亞戰に突入してより着々不動の體制を整へつつあるは、慶賀に堪へない。聖戰下における頻繁なる內閣の更迭は、國民をして徒らに混迷と不安に陷らしむるに役立つのみで、百害あつて一益もない。

何よりも肝要なることは日本の指導者が、旺盛なる氣魄を持つて責任を持つ政治を行ふことである。德富蘇峰翁が慨嘆するが如く、「最近三十年間殆んど我が日本にはこれといふ指導者もなくこれといふ統率者もなく、銘々が唯だその日その日の氣分で勝手次第にその場合を送つて來た」(註39)のでは、國運の進展は期待されない。一億國民の信賴をかち得る責任ある指導政治こそ望ましい。

今や皇國日本の興廢、東亞十億民族の隆替を賭する大東亞戰爭に突入してより一年有半、わが國內諸體制は愈々擧國一致に拍車をかけられ、一億國民は必勝の信念に燃えて一路聖業完遂に邁進するに至つたことは、誠に同慶の至りであるが、大東亞解放戰は長期戰の可能性充分なるに鑑み、敵國側よりの惡質宣傳に乘ぜられず、國內の流言蜚語に迷ふことなくして、擧國一致和衷協同して輝かしい大東亞の黎明の建設戰に從ふべきである。

引用書目

(註1)　註アンドレ・モロア「フランス敗れたり」(高野彌一郎譯)一九一頁參照
Danuer Lendleg : "What Happend to France" (英譯)
(註2)　ナチスの戰爭論「思想戰篇」國防科學研究會　二九六頁
(註3)　ルーデンドルフ「國家總力戰」(間野俊夫譯)五六頁參照
Ludendorff : „Der Total Krieg"
(註4)　鹿島守之助著「世界大戰原因の研究」一〇頁
(註5)　グレー回顧錄(石丸藤太譯)三頁
Edward Grey's : Twenty Five Ye rs"
(註6)　前揚ルーデンドルフ「國家總力戰」五三頁
(註7)　朝日新聞社發行「ルーデンドルフ回想錄」自一八六至一九七頁
Ludendorff „Meine Kriegserinerungen"
(註8)　ヒトラー「我が鬪爭」(室伏高信譯)自一一二至一一三頁
(註9)　ナチス黨編「ドイツ西部作戰」同盟通信社譯　一八七頁
"Der Deutsche Sieg im Westen"

（註10）セオドル・アベル著「ヒトラーとその運動」（小池四郎譯）二一頁參照
（註11）大竹博吉編「帝制ロシア沒落の眞相」二六四頁參照
（註12）ハロルド・ラスウエル「宣傳技術と歐洲大戰」（小松考彰譯）二三二頁
（註13）前掲ヒトラー「我が闘爭」一〇八頁
（註14）前掲ルーデンドルフ回想錄　七〇頁
（註15）前掲ルーデンドルフ「國家總力戰」五六頁參照
池崎忠孝著「最近軍問題論攷」四一四頁
誠文堂新光社「世界文化史大系」（22）「世界大戰」二二四頁參照
Winston : Churchil "World Crisis" 參照
（註16）山本實彥著「歐洲の現勢と獨英の將來」三八頁
（註17）前掲ヒトラー「我が闘爭」二八一頁
（註18）ジョージ・アストン卿「英國の機密室」（隅井孝次譯）二七八頁
（註19）前掲ナチス戰爭論　三〇三頁參照
Sir Cambell Stuart : "Secret of Crew House" 參照
（註20）高橋邦太郎著「防諜讀本」（國際ラジオ戰　參照
（註21）クリール著「吾々は如何にアメリカに宣傳したか」參照
Gorge Creel : "How We Advertised America"
（註22）マルシヤン「戰時におけるフランスのドイツに對する道德的攻擊」參照
Marchand : "L'Offenrine Moral vers Allemand en France pendant la guerre"
（註23）ニコライ中佐著「世界大戰中における情報新聞輿論」（外務省譯）四四頁
（註24）ベートマン・ホルウエッヒ「世界大戰の考案」參照
Bethmann Hallweg „Betrachtungen zum Weltkrieg"
（註25）フォルクマン中佐著「マルクス主義と獨逸軍隊」（參謀本部譯）自二一六至二一八頁
（註26）昭和十七年七月十八日翼贊政治會政務調査室における奧村喜和男氏の講演
（註27）戰陣訓參照
（註28）德富蘇峰「時事概言」（昭和十六・二・二一　東日所載）
（註29）德富蘇峰「皇國日本の大道」二五三頁

第二篇 謀略戰

——基本要綱——

○敵國並に敵性國家の軍事謀略、外交謀略、思想謀略、經濟謀略等に關する對策を講じ、革命、暴動、放火、暗殺、罷業等のあらゆる攻撃を積極的に防衛すること。

○わが國體に反する共産主義、個人主義、自由主義の思想謀略を排し、眞の日本精神を把握して萬民輔翼に邁進すること。

○國民負擔の公正を期し、經濟組織の缺點を是正し、社會組織の弱點を芟除し、敵國の思想攻撃の乘じ得るやうな隙を與へざること。

○日本的世界觀を把握し、必勝の國民精神を昂揚し、戰時國民經濟體制を確立し飛躍的戰力增强を圖り、銃後國民の奉公精神を發揚せしむること。

第一章　戰時謀略萬華鏡

1、謀略の重要性

前世界大戰當時獨帝ウィルヘルム二世は、ポッダム宮殿の庭前において、蝟集せるドイツ國民に對し、

「ドイツ國民諸君、起つて銃劍を執り、功を砲煙彈雨に立つること能はざる者は、須らく身を挺して深く敵國内に潜入し、その軍事行動を探り、而して敵國民心の擾亂を謀るべし」

と謀略による敵國崩壞を煽動したことがある。戰時下における謀略の重要性は贅言を費す必要はあるまい。

ドイツ陸軍大學では築城、野戰、攻防の軍事專門學の外に「世界民族心理研究」なる學科を設置して居り、ベルリン陸軍大學の入學試驗問題に「如何にして敵國民の叛亂を煽動すべきか」

（註1）の課題が課せられたことを見ても戰時謀略の重要性が認識されるのである。

2、謀略の意義と內容

謀略とは戰時平時を問はず、國籍の如何を問はず相手國に對する反對國家の計畫的な一切の有害行爲であつて、謀略の對象を大體軍事、外交、政治、經濟の四つの角度から檢討することが出來る。

一、軍事謀略

軍事謀略とは軍事行動を阻害する一切の行爲である。作戰、用兵、兵站、軍器、軍需工場に對する謀略であり、更に詳說するならば、兵營、軍艦、ドック、要塞、軍港、飛行場、兵工廠、造船所、軍倉庫、貯藏所、無線通信所等に對する爆破、放火、罷業煽動、暗殺、細菌乃至病毒撒布その他軍事交通機關の破壞、軍用糧食の燒却、軍隊に對する思想謀略等の一切の有害行爲を指すのである。

一、外交謀略

これは同盟國に對する離間工作、第三國に對する共同戰線乃至懷柔工作のための謀略である。例へば國內において故意に第三國人の要人を暗殺したり、外國船を擊沈したりして、國交を攪亂し、または逆宣傳、買收、流言蜚語を流布して、外交關係を斷絕せしめ、或は親善關係を破壞する等のである。

一、政治謀略

敵國の國策を妨害したり、政府要人を暗殺したり、軍、官民に對する思想工作、國民に對する反國家的思想の煽動、革命誘導、言論機關の買收、流言蜚語の流布、國內輿論の分裂を企圖するのである。

一、經濟謀略

敵國並に第三國の經濟破壞乃至攪亂を企圖する工作並に行爲である。軍用資源、軍需工場、各種工業會社、銀行、交通機關の破壞、燒却、消耗、攪亂等である。例へばクレジット並に外債募集の妨害、僞造紙幣の發行、金銀の買上、財閥買收、勞働組合乃至勞働者の怠業、罷業の煽動乃至援助等一切の經濟界攪亂の行爲である。

3、近代謀略の諸傾向

戰時謀略は、軍事、外交、政治、經濟等のあらゆる分野に亘つて行はれるが、近時謀略の普遍的傾向としては、經濟謀略が採用されて來たことである。すなはち經濟遮斷と經濟破壞とで、敵國資源を衰亡させ、生產力を低下させ、延いては敵國民の經濟生活に深刻なる打擊を與へ、以て自國の勝利に導かんとするものである。

就中經濟遮斷はいはゆる經濟封鎖にして、食糧難の飢餓戰術により、國民の戰意を挫くのである。また敵國の資源、生產の諸設備の爆破、放火等による資源並に潛在資源の絕滅を期することである。

殊に近代兵學が、オーリッド、モントゲラス、スミス、ホランド、エメニー等の學說を借りるまでもなく、「前線と銃後、戰鬪員と非戰鬪員の區別がなく、國家の實在的武力の外に、潛在武力（原料資源）の多寡により、戰爭の決定的役割を附與せんとするの傾向にある」ことは多大の注目を要するところであらう。（註2）殊に戰爭が長期化するに伴ひ、潛在武力（人員と物的資源を肉彈と戰鬪機械に變ぜしめる能力）が重視される。從つて生產機械（軍需工場）や原料資源（例へば石油貯藏所）の破壞、絕滅が前線將兵の殲滅と同樣に重視されるのである。（註3）

經濟謀略の外に、軍事外交謀略があり、思想謀略などは特に注目すべき必要があらう。すなはち共產主義や民主主義の人民戰線運動、反戰主義や產兒制限思想の宣傳、浮薄なるアメリカニズム（ジャズ音樂、レビュウ、ダンス）の滲透は共產主義と同樣に恐るべき思想謀略である。

この外暗殺などの國際政局に及ぼす影響も蓋し甚大なるものがあらう。サラエボにおける墺國皇儲フェルヂナンド大公は言はずもがな、最近はマルセィユ港におけるユーゴースラビア皇帝アレキサンドル一世の暗殺、ミュンヘンにおけるヒトラー總統の暗殺未遂事件、上海・北京その他の皇軍占領地帶における親日支那要人の暗殺事件、メキシコにおけるトロツキー暗殺事件、ソ聯謀報機關によりて行はれたるクリヴィツキー暗殺事件等を想起すれば充分であらう。

第二章　ソ聯の謀略戰術

1、煽動工作を重視する

近代戰における謀略工作に最も力を注いでゐるのは、革命暴動によつて政權を獲得したスターリンを首班とするソ聯邦であらう。「ソ聯の軍制組織は政治將校（共産黨員）と純軍事將校との緊密なる協力の下に政治教育活動に携はり、赤軍戰鬪力を強化する」とニコノフが言つて居るのを見ても、近代戰における政治工作を如何にソ聯が重視して居るのかわかるのである。（註4）

赤軍における政治工作の任務として、赤軍野外教令（第七條）において左の如く煽動、謀略、宣傳の重要性が指摘されてゐる。「赤軍における政治作業の根本的任務は、無産階級の武力的擁護たる赤軍の戰鬪能力を保持し且つこれを鞏固ならしむるにあり。而して全政治機關は軍内における無産階級の國家的構成を扶植する最も重要なる指導者として、組織的政治的手段及び煽動的宣傳作業を實施し、これによつて軍における無産階級の指導的地位及び正當なる階級戰の指導を確保し、以てこれが目的を達成せざるべからず。

煽動宣傳作業の基礎的任務は、軍内委員をして勞働聯盟における無産階級の大衆的指導、階級戰爭の目的及び勞働階級並に被搾取階級の國際的利益を常に正當に理解せしめ、且つ勝利に對する確信を得しめ、以てソヴェート政權のイデオロギー及び意志に絶對的信賴服從せしめ、且つこれを中心に全員を打つて一丸となさしむるにあり。

戰時における凡ての煽動宣傳の作業に就いては、嚴に軍の機密を保持する事を要す。

政治作業戰鬪及び政治狀況の細部に亙り、絶えず注意を拂ひ、適時これを制定し、且つ指導部及び參謀本部は密接なる連絡を保持し、これと共同することにより目的を達成し得るものとす。

作戰及び戰鬪を維持すべき政治作業は、政治機關により實施せられ、自己軍隊を掌握し且つ敵軍及び戰場附近の小市民に對し、傳播する方法により實施せられるものとす。」

2、ソ聯の反戰鬪爭綱領

以上はソ聯の野外教令の第七條の主文の內容であるが、要するにソ聯の計畫しつゝある謀略はコミンテルンの指令の下に各國共產黨を操縱し、帝國主義、資本主義、國家主義を打破し、階級鬪爭を煽動せしめ、自由主義、反軍思想、祖國敗戰思想を皷吹し、階級鬪爭から革命暴動を誘發せしめ、國家機構を崩壞してプロレタリア獨裁を確立し、ソ聯邦に從屬せしめるにある。

ソ聯邦の反戰鬪爭の手段としては、一九二八年のコミンテルン第六回世界大會における「反戰鬪爭綱領」の決議を見ればわかる。その決議は左の如く三種に分類されてゐる。

一、各國列强間の帝國主義戰爭
二、植民地に對する列强の帝國主義戰爭
三、ソ聯邦に對する列强の帝國主義戰爭

その具體的手段としては次の如き戰略戰術が採用されてゐる。

一、戰爭勃發迄の共產黨戰術

1、帝國主義戰爭反對のスローガンで策動しこの觀念を大衆の中に傳播する。
2、自國の戰爭準備を暴露し、平和主義・自由主義を皷吹する。

二、戰爭勃發直前又は戰爭中の戰術

1、戰爭反對のスローガンを廢棄して、直ちに帝國主義戰爭を內亂に轉化せしめるスローガンを全面的に揭げる。
2、戰爭の遲延は絕好の機會であるからこれを利用する。
3、兵士を煽動して上官への反抗を煽り反戰反抗の意識を傳播する。
4、特に交戰國軍隊の煽動によりて兵士間の交驩を促進する。

三、內亂戰術

1、國家の政治經濟を動員し（一）（二）の以上の戰術が奏功した場合、國家の全工場を煽動してストライキを起す。
2、これを產業別、地域別に擴大させて全國的ストライキを起し、勞働者を街頭に引出し、頻繁にデモンストレーションを起す。
3、ストライキ、デモンストレーションの頻繁なる結合戰術によつて國家內部を攪亂し、收

拾すべからざるものとなす。

4、時機を見て勞働者農民を武裝させ大々的工場占領に始まり遂に武裝蜂起革命を起す。

ソ聯の內亂戰術の手段方法は以上の如くであるが、その兵務要令第十八條中に「指揮官は兵團の政治的精神狀態を鞏固にし軍規を嚴肅にし、且戰鬪能力を發揚すべき政治作業と戰鬪行爲との調和を良好ならしむるため、兵團の全政治作業に參加するを要す」と說いて、宣傳工作と共に軍事行動の運用統制に重點を置いてゐることは特に注目に價する。

3、軍隊崩壞手段

特に敵國軍隊の崩壞手段に重點をおいたマルクス・レーニン主義戰爭敎書は、スターリン政權下においても嚴肅に踏襲されてゐるのである。敵國軍隊崩壞手段として、マルクス・レーニン主義戰爭敎書中の「ブルジョア軍隊內における革命作業」と題する篇中に揭げられた事項を拔萃すれば左の如くである。

一、國家の自衞力減殺の手段

1、軍隊の核心を爲す幹部及基幹部隊の解散
2、憲兵、警察、其他國內戰鎭壓に使用せらるべき兵力の武裝解除
3、ファッショの武裝解除並に解散
4、軍法會議の廢止及在營期間の短縮の鞏固なる主張
5、徵兵は總て鄕土の兵營に入隊せしむる如く要求
6、營內における起居容儀に關する規則撤廢
7、兵卒の委員會創設
8、勞働團體中、所要の者に兵器の操法を敎育させる權利並に自由なる敎官の選擇

（右の中在營期間の短縮は軍事能力を著るしく低下せしむるものであるから、各種の機會を利用してこれを支援し、在營期間短縮に伴ふ代償施設に凡ゆる妨害をなさねばならぬ。これらの革命的要求は、民衆に受け容れられ、容易に革命化し得る時機と形勢とにおいて決行しなければならぬ。）

二、兵の權利及物質的待遇上の要求

1、增給及內容の改善

2、兵の代表者より成る給養委員の編成
3、軍紀的刑法の廢止
4、兵の體刑されたる場合責任者たる將校下士官の處罰
5、隊務以外において平服着用の權利
6、每日外出許可
7、休暇の增加及休暇中の增給
8、結婚の自由
9、家族の保證
10、新聞投稿の自由
11、職業組合組織の許容
12、選擧權及政治會合に自由出席

（兵士の戰鬪能力弱化の爲革命的要求を取容れる必要がある。）

第三章　日本の軍事謀略

1、明石大佐の對露戰略

ソ聯の內亂戰術は以上の方法を以て行はれんとしてゐるが、この方法手段を日本が日露戰爭當時既に採用してゐるのは興味が深い。

日露戰役における日本の對露謀略として、看過すべからざるは當時の駐露駐在武官明石大佐の謀略であらう。明石大佐は、わが國の參謀本部が對露作戰計畫を熟議して居る秋に、歐洲の一角で露國の後方攪亂・內亂誘導、革命煽動・軍需工場勞働者のストライキ、勞農者層の反戰運動等を惹起せしむべく劃策したのである。

大佐は邦人某を助手として、キーロフ大尉その他三人の露國將校をわが方のスパイとして活躍せしめ、苦心の結果露の動員計畫の秘密書類を入手し得たのみならず、反帝政運動の革命黨を利

用して、國内に革命暴動を起さしめ、シベリア出兵を牽制せんとした。

當時露國内にはレーニン、プレハノフ等を指導者とする社會民主黨、チャイコフスキーを指導者とする革命社會黨等、十五の革命黨派があつた。これら十五の革命派を糾合して、一舉革命を成就せしめんとした。

恰もよし、カストレン、シリヤスク等は露國内の反帝政主義者を連合せしめ、日本の物質的援助の下に革命運動を開始せんとした。シリヤスクはこの雄圖を抱いて、諸外國に潛伏せる各黨の領袖を勸説して、その結果が大佐の許に報告された。革命黨各派の共通意見は左の如くであつた。

一、日露戰爭はロシアの侵略行爲によつて惹起されたものであつて、露國の敗北は自業自得である。

二、革命派は露帝及び其の政府を以て露國人民を搾取し、虐待する敵となすものである。從つて、これを打倒することは當然であり、開戰を機として革命運動を開始することは同感である。

就中ポーランドの國民黨領袖ドムスキーは明石大佐の勸誘により渡日して、露兵の降伏勸告の宣傳文を作成して、戰場に撒布して謀略工作に從事したのである。

2、革命運動を援助する

當時大佐は露國革命運動を援助して、後方攪亂工作の計畫とその意見書を、參謀本部に提出した。大佐は若しこの計畫案が容認されない場合歸國したいと參謀本部に申し送つた。この計畫が誇大妄想で實現困難と見た參謀本部は、最初は反對意見で、補充部隊長で滿足するなら内地に大佐の勤務するポストがあると至極冷淡の返事をした。しかし效果が次第に認められて來て巨額な運動資金が供給され、露國後方攪亂の密命は、留守參謀次長の中岡中將より大佐の許に發信されたのであつた。

參謀本部の公認と運動資金を得た大佐の計畫は着々と實行された。社會革命黨首チャイコフスキー、社會民主黨首レーニン等に多額な運動資金が提供された。かくて「露國國内各地の動員妨害」「郡會、洲會の煽動」「工場ストライキ」等の運動方針が決定された。

滿洲原野における日露の大軍は沙河を挾んで一大激戰が展開されんとしてゐる。日本が興亡の一戰を賭けんとしてゐるの秋、俄然モスクワを中心として革命の狼煙は一齊に燃えひろがつたの

である。

ポーランド社會黨、國民黨は眞先きに革命の狼煙を擧げた。農民は獨立を叫び、各所に集合して官憲と抗爭した。農民は兵役召集を拒否した。勞働者は戰爭反對を絶叫してストライキを起した。反戰革命の新聞やビラが各所に撒布され、演說會は諸所に開催されて群衆を煽動した。召集された兵士が脫走した。

極東に送らるべき露國の數個師團の軍隊がこの革命運動鎭壓に向はねばならなかつた。軍隊の輸送機關は各所に破壞されたために輸送の故障が生じた。

日露戰爭における明石大佐の露國の後方攪亂工作は、豫想以上に成功を收めたのである。

第四章　ドイツの外交謀略

1、日獨墨三國同盟の劃策

次ぎに外交謀略についてその引例を求むるならば、前世界大戰當時（一九一六年）ドイツはアメリカの聯合側に參戰を阻止せんとして日獨墨三國同盟を劃策した。當時の外交的樞要人物の地位を記して見るならば、ウォーター・ページが駐英アメリカ大使、フォン・ヤゴウがドイツ外務大臣、ベルンスドルフが駐米ドイツ大使、エックハルトが駐墨ドイツ公使、カランザがメキシコ大統領、エドワード・グレーがイギリスの外務大臣であつた。

ドイツ外相ジンメルマンから、アメリカ大使ベルンスドルフに密電を打つて、日本とメキシコとドイツの三國同盟を締結せしめ、以てアメリカの背後を衝かしめんとした外交謀略で、この密電はイギリス諜報部で解讀されて、ドイツの陰謀はアストン卿の「英國の機密室」によつて暴露された。（註6）

2、密電暴露さる

左の密電はその指令である。

駐米大使ベルンスドルフ殿（ジンメルマンより）

暗電一五八號（極秘）貴下より駐墨ドイツ公使宛通信は貴下自身にてなされたし。電一號は極秘のこと。貴下自身にて解讀ありたし。Uボートに關する公表は二月一日の豫定なるは、アメリカをして聯合國に加入せしめさる爲なり。もし失敗せば左の條件にてメキシコを同盟方に參加せしむる樣盡力ありたし。

一、戰爭開始終了については同一行動を採る事

二、ドイツは財政的にメキシコを援助し、勝利の場合には、テキサス、ニューメキシコ、アリゾナ等を割與する事

尙、詳細に亘つては貴下に一任す。若しアメリカが聯合國側に組して宣戰を布告する時は、極秘裡に貴下よりメキシコ大統領に御通知ありたし、同時に日本も亦同盟國側に加入せしむる樣計りたき旨、大統領に御相談ありたし。次にUボートはイギリスをして平和を提唱せしむるために使用する旨御諒解を得られたし。以上

エックハルト殿（ジンメルマンより）

暗電一號及十一號（極秘）

アメリカに洩れる恐れなくば、メキシコとの同盟につき交渉を直接大統領と進められたし。尙該同盟を決定的にすることは、我國とアメリカと開戰直前まで保留せられたし、メキシコ大統領にそろ〳〵日本に交渉を持出してもよからんと告げられたし。若しメキシコがアメリカを恐れて我が提案を拒絕しても、日本さへ同盟側に加盟させて呉れるならば、戰後ドイツとメキシコは防衛同盟を結ぶべき旨提案されたし、以上。

ドイツがメキシコを誘つて、日獨墨同盟の外交暗躍の運動は、ベルンスドルフ並にエックハルトによつて最善の努力が拂はれたが遂に失敗した。そしてドイツの潛水艦作戰が開始されるに至つて、アメリカは一九一七年四月六日、ドイツに宣戰を布告するに至つたのである。

第五章　獨ソ思想謀略戰

1、レーニンの封印列車

敵國內の政治的攪亂と經濟的困窮とに乘じて、國內に革命や暴動を起させ、內部から崩壞せし

むる謀略は各國の常套手段である。このよき引例は第一次大戰當時の露獨兩國において、これを發見することが出來る。

一九一七年に至りロシア國内は打續く敗戰と食糧難により、遂に同年三月八日ペテルブルグにおいて食糧分配問題に關する不公平から暴動が起り、この暴動が一般的革命にまで燃えひろがり革命假政府が樹立された。革命政府は各地の軍司令官に電報を以て革命政府に服從を要求した。革命政府の實力には反對する者もなかつた。

前線の各司令官、將軍たちは、愴惶として革命政府の許に、服從の宣言を繰返し自己の安全を計つた。首鼠兩端を持し態度の曖昧であつた多數の將軍達は罷免されたり、投獄されたり、或は銃殺された。反革命的士官たちは多量に殺戮された。全戰線至るところに革命委員會が組織され將校の命令權は制限され、或は剝奪された。

かくて戰線における統一は全く破壞され、混亂は益々擴大し、戰線及び兵站部の兵士たちは列を亂して勝手に歸鄉した。また塹壕におけるロシア兵はドイツ兵と和解し、交驩するといふ狀態であつた。

ドイツ政府はかねてスイスに亡命中のロシア革命黨の巨頭レーニン一派を支援して、ドイツより封印列車を仕立てロシアに潛入せしめた。ドイツ政府より特別の支援を受けたレーニンは、ロシア國内に潛入するや、敗北せる軍隊や混亂せる國民に向つて平和宣傳、即時媾和を煽動した。ドイツ政府の謀略は見事に效を奏し、レーニン一派の革命派は政權を把握し、勞農政府は樹立された。ロシアは國内崩壞より自滅の途を辿つたのである。

しかしドイツ政府の謀略は、ロシア政府の革命の返り血を浴びて「革命の毒素」はドイツ國内に浸潤して、ドイツ國の崩壞を招くこととなつた。

2、獨兵赤の保菌者となる

東部戰線においてドイツ參謀本部は、ロシア軍隊を崩壞せしむべく、全戰線に亘つて革命宣傳を皷吹した。斥候をして多數の宣傳ビラを携行せしめロシア側の塹壕に赴かしめたが、この宣傳員がロシア兵と接近し、獨露兩國の兵卒たちがお互ひにパン、鑵詰、煙草などを交換したり、ブランデーや珈琲を飲み合ふうちに悲慘なる戰爭の意味なきことを語り合ひ、平和を熱望する友誼的交驩が取りかはされた。この結果はドイツ兵にとつては怖るべき逆效果をもたらされた。前戰

における「革命の毒素」を吸收したドイツ兵がたま〳〵歸還したり、國内に一時歸休を命ぜられたりしてゐる「赤の保菌者」が、國内に反戰主義や革命思想を傳播した。

國内におけるドイツ國民の不平不滿は、前線におけるドイツの總攻擊の失敗のために拍車をかけられ、革命運動は熾烈となつた。カール・リーブクネヒトやローザ・ルクセンブルグ等の急進派の政治運動によりストライキは各所に勃發した。これに加ふるにロシア大使のヨッフェの活躍は猛烈となり、革命諸團體に資金を提供して煽動した。

ロシア大使より革命資金を提供された革命派諸團體（獨立社會黨、スパルタクス團、左翼勞働組合）の鬪爭方針は次の如くであつた。すなはち、一、政治的示威運動、二、軍需工場のストライキ宣傳、三、國内の革命的諸團體を統一組織すること、四、軍隊内に革命宣傳、五、兵役忌避服從忌避の奬勵、六、兵士のストライキ及び暴動反抗の奬勵。この方針によりかれらは極めて有效に革命思想を軍隊及び國民に傳播した。

3、獨ソ戰とソ聯のゲリラ戰

戰爭の長期化に伴ふドイツ國の勝利の不可能の宣傳、食糧難による民心の萎縮、罷業の煽動、軍隊への反戰思想の普及は遂にキール軍港における（一九一八年十月）水兵の反抗暴動となつて呪詛すべき事態が發生した。この暴動をきつかけとしてドイツは國内に革命が勃發して敗れたのである。レーニンを支援してロシアを崩壞せしめたドイツが、却つて革命の返り血を浴びて自壞した形である。

今日の獨ソ戰にてはソ聯の猛烈なる抵抗にも拘らず、ソ聯の敗色は蔽ひ難いものがある。レーニングラード、モスクワが陷落すれば、ソ聯はヴォルガ以東ウラルに退却して抵抗するかも知れない。前大戰當時レーニンが國内革命遂行上、背に腹は換へられずブレストリトウスク條約を締結した時、「これは平和條約ではない。息ぬきのためだ」と豪語して、無條件の條約に贊成の先鋒を切つたスターリンは、過去の記憶を呼びおこして、ソ聯占領地内の獨兵をして「赤の保菌者」たらしめたレーニンの故智を踏襲する謀略を用ひるべく努力するであらう。が、今日の獨ソ戰は政治、經濟、思想、軍備において前大戰當時とは條件に多大の相違があることを看取しなければならぬだらう。

第六章　獨英の謀略戰（革命、叛亂、暗殺）

1、ドイツの對英謀略

ドイツは前大戰當時、英國におけるアイルランド獨立運動を利用した。アイルランド人のケースメントを抱きこみ、これを支援してアイルランドの叛亂を擴大せしめんとした。アイルランド獨立黨員に武器を貸與し、これを煽動し、かれらと連絡することにより、英國の軍事行動をスパイせしめ、英國商船擊沈（潛水艇による）に利用した。

ドイツの對英謀略戰はイギリスの植民地にまで及び、印度革命志士に資金を提供し、獨立運動を煽動した。ドイツ人エルネスト・シュンネル等が、印度革命派のハナドン・チャキャベルチー等を煽動して叛亂を企てしめた。

ドイツの大煽動家ワスムスは參謀本部の秘命によつて、ペルシヤに潛入し、大戰中ペルシヤ海岸に割據し、土民を使嗾して、反英運動を起させたため、イギリスは土民鎭壓のため多數の軍隊を出動せしめねばならなかつたのである。

2、アラビアのローレンス

イギリスの對獨謀略の雄たるものは「ローレンス・オブ・アラビア」で有名なる「無冠のアラビア王」と言はれたローレンス大佐がアラビア土人を使嗾して、獨墺側を惱ましたことである。當時一青年であつた慓悍なローレンスが熱沙のアラビアに潛入し、巧みに土民の心を收攬してアラビアを聯合國側に加擔せしめ、トルコ軍をゲリラ戰術によつて惱まし、パレスタイン戰に擊破して多大な成功を收めたのである。（註7）

ローレンスは英國諜報部員であつたことが最近になつて判明したが（英國スパイ五百年史—牧勝彥著）、ローレンスは陸軍士官學校の出身者でなく、オックスフォード大學で考古學を研究した變り種である。

「リヒトホーフェン」といふその言葉を聽いただけでも、ドイツ青年飛行將兵を奮起せしめると

同じく、「ローレンス」は今日においてもイギリス青年の熱愛の的である。かれに對しては「無冠の帝王」「神秘の人」「人間カメレオン」「國王製造者」等の綽名が献上されてゐる。（註8）

事實かれは近代戰術の革命家であり、ゲリラ戰の組織者であり、アラビア民族運動の指導者でもあつたのである。前大戰當時ローレンスがアラビア獨立運動を指導し、かれ特有のゲリラ戰術を以て獨土兩軍を惱ましたことは、かれの好著「智慧の七柱」（註9）を借りるまでもなく世間周知の事實である。

ゲリラ戰における鐵道破壞の大膽不敵さが、敵味方に如何に強力な印象を與へたかはアラビア人の間におけるかれの愛稱がダイナマイト王といふのを見てもわかるのである。

この外トルコで活躍したジョン・エドワード、ソ聯邦で勇名を馳せたロカール、「石油の妖精」と異名をとつたガートルード・ベル女史等イギリスの策士、謀略の天才もドイツに優るとも劣らざる程多士濟々である。

イギリス諜報部の組織が極めて大であり、その軍資金も多額で、あらゆる方面の智嚢を集めてゐることは天下周知の事實で、ソ聯のゲ・ペ・ウ、ナチス・ドイツのゲシュタポと匹敵するものである。

3、ヒトラー暗殺未遂事件

最近の英國諜報部の對獨謀略は、その本部をオランダのハーグにおき、ドイツ國内の不平分子を糾合してドイツ國内に陰謀團を組織し、各地にフラクションを作り、ドイツの内部の崩壞工作に努力してゐたのである。これはヒトラー暗殺未遂事件のため表面にサラケ出されたに過ぎないが、この事件はイギリスの對獨謀略が如何に猛烈であるかを示す有力な證據ともなるのである。

ヒトラー暗殺未遂に終つたミュンヘンの爆彈事件は、イギリス諜報部の暗躍であるとドイツ側では發表してゐる。昭和十四年十一月八日、ドイツ・ミュンヘン市ナチス黨蹶起記念會場ビュルガー・ブロイ・ケラアで突發した時計仕掛けの爆彈事件は、危くヒトラーの生命を奪ふところであつた。

當日ヒトラーは記念演說時間を豫定より少し早目に行つて退出したために生命は助かつたが、ナチス幹部がその犧牲となつて殪れたのである。これはヒトラー暗殺未遂として、容易ならざる大事件と見做されたが、ゲシュタポの活動により犯人が捕縛された。

秘密政治警察長官ヒムラーの發表によれば、爆彈を直接に裝置したものはドイツ人ゲオルク・エルザー(三六才)であるが、かれを使嗾してこの犯行を敢行させたものは、元ナチス黨員オットー・シュトラッサアで、更らにそのシュトラッサアの背後に潜む黒幕こそは英國諜報部であつたのである。

英國諜報部からの指令及び資金を受けた犯人ゲオルク・エルザーは一九三八年九、十月頃ヒトラー總統暗殺を計畫し、三九年八月にはビュルガー・ブロイ・ケラアの大柱に穴を掘ることに成功し、ミュンヘン蹶起記念日の一週間前に爆彈を持込み、これを穴の中に裝塡した。そして五日前にこれに時計裝置を取附けようとしたが目的を達し得ず、漸く犯行の四日前に時計裝置を完成した。かくて爆藥が準備出來たので、七日深更秘かに時計裝置が故障なく動いてゐるのを確め、愈々翌八日朝汽車でミュンヘンを立去り、その夜半國境コンスタンツ附近で擧動不審のかどで捕縛されたといふのである。

第七章　ドイツ白書の暴露

1、英佛の對獨謀略を暴露

イギリスの對獨謀略攻擊は熾烈を極めるものであるが、今日の西部戰線におけるドイツ大勝直後ドイツで發表されたドイツ第五次白書（ラ・シャリテ停車場で發見された英佛對獨攻擊の機密文書）によるベルギー、オランダ、ルクセンブルグの中立諸國が、秘密裡に英佛側に加擔してゐたことが判明した。一九四〇年ヒトラーの議會における演說にも左の如くイギリスの謀略を指摘してゐるのである。(註10)

「一九四〇年六月十九日、ラ・シャリテ停車場附近で、一ドイツ兵士が貨車檢索の結果、一風變つた文書を發見した。かれはこの文書を――特別な注意書きに眼をとめて――卽刻上官に提出した。この文書は更に上部へ提出され、甚だ重大なる意味を持つてゐることが判明した。かくて、停車場は更めて綿密に搜査された。その結果、ドイツ國防軍は驚天動地の歷史的文獻一束を入手した。すなはち、聯合軍最高軍事會議の秘密條項が發見されたのであり、この中には「輝かしき」協定の總ゆる會議の議事錄が含まれてゐたのである。今度といふ今度は流石のチャーチル氏も、

この前ワルソウで發見された文書の場合のやうに簡單に胡魔化し去るわけに行かぬであらう。何故ならばこの文書には總て、ガムラン、ダラディエ、ウェイガンその他諸公の署名があり、お望みなら何時でもこの連中に判定を願ふことが出來るからである。そしてこの文書こそ、これら好戰者、戰爭擴大者達が如何にして戰爭を挑戰したかをはつきりと暴露してゐるのである。

先づかれら殘忍な政治家、軍人たちにとつて弱小民族は單に目的のための手段に過ぎなかつたこと、次いでかれらは如何にフィンランドを自分達のために利用したか、ノルウェーとかスエーデンを戰火にまきこんだか、バルカンに火を放つてそこから數百個師團の援兵を得んとしたか、好意的なトルコの中立を狡猾極まるやり方で惡用し、バツーム及びバクー油田の爆破を用意したか、ベルギーとオランダを鎖でつないで、終には軍の一元的統帥協定のトリックにひつかけたか、その他あらゆる陰謀が悉くこの文書に暴露されてゐるのである。」

2、饒舌無能な英佛政治群

ドイツ第五次白書によると、イギリスがオランダ政府の承認を得て、オランダ領を對獨作戰基地として組織的に利用してゐたのである。白蘭兩國參謀本部と英佛參謀本部とが緊密化して來て英佛の對獨攻擊準備工作が隱密裡に準備されてゐたことを暴露してゐる。「英國及びフランスの當局者は、余の提案がかれらの戰爭取引に對し如何に恐るべき痛擊を與へるものであるかを覺つたのである。

かくてかれらは時を移さず手筈を整へて宣傳を開始した。曰く、媾和を考へるのは愚である。否犯罪であらう。曰く、戰爭は繼續しなければならない。文化の名において、人類の名において、幸福の、進歩の、文明の、そして——手當り次第にことかいて——神聖なる宗教の名において戰爭を續けよ。このためにはニグロを動員せよ、ブッシュマンも動員されねばならぬ、されば勝利は自ら我に來る。我等はただ手を伸ばせば足りるであらう。ヒトラー自身このことは百も承知だ。だからヒトラーは平和提案の藝當を世間にお目にかけてゐるのだ。若しヒトラーが勝利を信ずるならば、何故無條件媾和など英佛に提案しよう。かくて數日中には、かれら戰爭挑發者たちは、全世界に對し余を卑怯者と言ひ觸らすことに成功した。余はこの平和提起によつて侮蔑され、人格を傷けられた。チェンバレンは世界の眼の前で公然と余に唾を吐きかけ、かれの背後にある使嗾者チャーチル、ダフ・クーパー、イーデン、ホァベリシャ等々の指圖に從つて平和を論ずるこ

とを拒絶し、いはんやこれを取上げることなど頭からはねつけたのである。

鶏でも卵を一つ生むか生まぬ中に、鳴聲を立てゝ人に知らせる奴はあまり利巧ではない。それにも增して政府當局者が自らの企てを、未だ計畫ばかりの中から、世界に向つて宣傳するのは凡そ愚劣極まる。英佛兩民主主義國の饒舌な政府首腦部のおかげで、我々は夙に敵國が戰爭を擴大し、特にノルウェーとスエーデンに集中せんとしてゐる事實を知つた。」

ヒトラーは英佛の陰謀を以上の如き演說で國民に知らせて、國民に新たなる覺悟と決心を促したのである。

第八章　經濟謀略（買收、罷業、放火）

一、ドイツの對米謀略工作

經濟遮斷による敵國側の經濟的窮乏に乘じて民心を攪亂し、敗戰思想を皷吹することは前述したが、ここでは主として敵國言論機關を買收して國論を分裂させたり、軍需工場に罷業を頻發させたり、放火破壞を煽動して戰爭遂行を阻害したりすることについて述べることにする。

ビューロウ侯の追想錄（註11）によつてもわかるが、第一次世界大戰當時ビューロウ侯はイタリーを獨墺側に加擔せしむべく、ドイツの特命全權大使としてローマにあつて活躍した。侯はイタリー政界や言論界に金錢をバラまき買收したが、

「余はイタリー國民までも買收出來なかつた。」

と嘆聲を發したのであつた。

前大戰當時ドイツ政府は植民大臣ベルンハルト・デルンブルグをアメリカに派遣し、アメリカ駐劄大使ベルンスドルフと協議せしめて一大謀略を展開せしめた。かれらは當時のアメリカ人口一億二千萬のうち約一割を占める獨系米人に注目し、かれらを煽動してニューヨークに印刷所を設置し、「祖國」といふ週間雜誌を發行して宣傳を始めた。

獨系米人にして大學教授たる者、ドイツに留學したドイツ最展のアメリカ人を動員してドイツを辯護せしめた。また講演者を雇傭して平和運動を促進せしめ、映畫界や新聞雜誌社を買收してアメリカの參戰反對運動をなさしめた。

かくの如く新聞買收によるドイツの反戰運動は相當な效果を收めた。新聞による煽動記事は、やがて一流名士達の平和運動を促進し、驚くべき速度と熱心さを以て着々と運動が展開された。この平和運動によつて八百萬の投票が、ウィルソン大統領攻擊や、武器彈藥の輸出反對に投ぜられたのである。また婦人團體や、主婦聯盟等の諸團體も平和運動の最先頭に立つて活動した。これら平和運動者の名によつて、秘密に聯合軍（英佛側）に武器彈藥を供給し、戰爭擴大を助長せる者に對する告發狀が提出され、新聞紙は堂々と密輸出者の氏名を揭げて攻擊した。

2、アメリカ言論界を買收する

反戰運動のパンフレット、リーフレット等の出版物も激增し、就中ドイツ大學教授九十三名の連名で「文明世界への途」といふ宣傳用の書物がアメリカに送られて、アメリカ人の同情心に訴へて多大の效果を收めた。ルドウイッヒ・フルターの「ドイツの一友人よりアメリカ人へ」、デルンブルグの「戰爭の探照燈」はドイツを辯護する媒介物として全アメリカに撒布せられたのである。かくしてアメリカ參戰前におけるドイツのアメリカ攪亂工作費として三、四千萬ドルが拂はれたと言はれてゐる。

ベルンスドルフ駐米獨大使はフォン・リンデルンと共謀して次の如き對米攪亂の謀略を企圖した。

一、アメリカの物價を暴騰させる目的を以て大規模の戰時必需品買占めを敢行する。
一、輿論を煽動して武器の船舶輸送を禁止せしむる。
一、アメリカの產業界に一大同盟罷業を續發せしむる。
一、アメリカ內の武器彈藥工場及びその輸出船舶を破壞せしむる。
一、アメリカとメキシコとを交戰せしめてアメリカの武器を方向轉換せしむる。

以上の如き謀略計畫は着々と奏效し、次の如き事實が續々としてアメリカ國內に勃發した。アメリカ國內に散在する彈藥工場の株は買收せられ、株價はうなぎ登りに昇り、現株は何者かによつて買收せられた。食料品、棉花、グリセリン、羊毛が巨額に買收せられ、中立國を經てドイツに輸送せられた。もちろんこれらは火藥製造の原料となるのであつた。

更にニューヨーク、シカゴ、ボストンその他諸都市の大新聞紙が平和促進の記事を大々的に揭載し出した。單なる平和運動のみならず軍需工場の爆破、火災、同盟罷業などが續發した。

3、罷業、爆破を煽動す

上述の平和運動と呼應して、數十の軍需工場には一齊にストライキが發生し、それは疫病の蔓延する如く工場より工場へ傳播して、終にスタンダード石油會社、レンピング武器會社、シェネクダデー總發電所等の、アメリカ有數の代表的工場にまで總ストライキが行はれ、總數百二件にまで及んだ。

更らにベツレヘム製鋼所の機械製作所に火災が起り燒失した損害だけでも二百萬ドルに上り、これがため職工の失業が二千百名にも達した。これと同じ日にエジントンのボルドウィン機械製作工場に火災が起り、翌日ロトレントンの針金工場の倉庫が燒失したり、英佛向け武器輸送船舶が時計仕かけの爆藥で爆發したりした。ドイツ側のアメリカ國内における買收、罷業、放火、爆破等による謀略は非常なる效果を收めたが、その結果としてアメリカ國務省のこれら原因の探査追求となり、ドイツ大使館付武官ボーイ・エード、パーベン等の活躍した事實が判明して、兩人共本國へ送還されることになつた。

これはアメリカ國際探偵局、司法省特務機關、警視廳などの協力的活動により、ドイツ側の謀略機密書類が發覺したからである。この重量七十ポンドに達する重要秘密書類の中には、在米ドイツスパイ、煽動員の組織計畫の内容、名簿、鐵道及び運河の破壞計畫、軍需品製造工場の爆破、放火、ストライキ誘發計畫、聯合軍側關係の運送船擊沈豫定書、印度、エジプト、アイルランドの叛亂指導援助に關する細目計畫、暗號手帖、アメリカ軍の軍事的動員計畫内容調査書等が發見されたからである。

4、帝政ロシアのフランス新聞買收

新聞買收による自國を有利に導かんとするよい例として、日露戰役中ロシアの軍事探偵が、フランス新聞紙を買收したことが、アーサー・ラフファロウィッチにより暴露された。かれの使命は日露役當時、フランスの新聞を買收して、當時ロシア國内に勃發せんとしつゝある不隱なる形勢特に革命運動、同盟罷業等の報道が、フランスの投資家を畏怖させ、當時公募中のロシア政府の公債に惡影響を起させないことであつた。かれはそれを次の如く告白してゐる。（註12）

「フランス新聞の助成金（つまり買收金）は、一九〇四年極東において日露戰爭が勃發して、國內にパニックの起きた年の二月に開始された。大藏大臣ルゥヴィエル氏（後年フランスの總理）の依賴により、ロシア政府の大藏大臣は、二十萬フランのクレディットを設定した。この金はフランス政府の代表者ルノアールを通じてばらまかれた。そしてロシア政府に對する總額八億フランの借款が保證されるまで、買收金の支拂が繼續された。

ロシア本國における不穩の形勢が、ロシア公債を所有するフランス人に不安の念を與へ、もしフランスの輿論を放任すれば由々しき結果を起したであらう。本國の形勢が益々惡化して來たので、パリ銀行が提供した五萬フランの中、十一月三十日一萬フランをアヴァス通信社へ、七千フランをル・タン紙へ、四千フランをル・ジュルナール紙へ支拂つた。更に十二月三十日にも、アヴァス通信社とル・タン紙に對して高價なる犧牲を支拂ふことが絕對に必要であつた。

ロシア公債を成功させるためには多數の新聞社の買收は絕對に必要であつた。なんとなれば當時のロシアは財政難に陷り、極東における敗戰（日露戰役）はともかくとして國內の情勢は惡化してをり、もしその眞相がフランス社會に知れわたれば、折角起債中のロシア公債が失敗するからである。

一九〇四年ロシア政府がフランスの新聞社に支拂つた金が九十三萬五千七百八十五フラン、その翌年には一躍して二百一萬四千六十一フランに激增した。更に前記のラファロウィッチの報告によれば、一九〇六年に十萬フランの賄賂をル・タン新聞に送つてロシア公債を有利にまとめあげようとしたが、その外に五萬フランをル・タン、ル・プチ・パリジァン、ル・ジュルナール、フィガロ、ゴオロアの各紙とアヴァス通信社にばらまかれた。

以上の如くフランスの代表的新聞紙だけではなく、その外に三百七十九萬六千八百八十一フランといふ大金が宣傳費として群小新聞社にばらまかれた。すなはちジュルナール、デバ、エコー・ド・パリー、リベルテ、パトナイ、エクレール、ラッペル、ラヂカル、アントラシジァン、ラ・ヴィ・パリジァン等に湯水の如く撒かれたのである。

以上のラファロウィッチの告白によつても解るやうに、フランス各新聞紙は日露戰役中に多額な金錢を受けてロシア政府に買收されたのである。そのためロシア國內に勃發した革命、暴動、罷業、虐殺などのニュースはフランス新聞には掲載されず、ロシアは日露戰役の戰費をフランスから募集することが出來た。

5、重慶の對日放火謀略

罷業や爆破や暴動による謀略により、國内を攪亂し、これを混亂に導き、不穩なる宣傳工作と相伴ひ、治安維持を困難ならしめて、内部的に崩壞せしめ、または戰爭經濟を困難ならしめんとする傾向は各國共通な政策である。しかし各國の國内政治組織機構や各國民族の心理、風俗、習慣に從つてその謀略、手段方法の異なるのは當然である。

支那事變に當つても重慶側から發せられた巧妙なる宣傳工作などは、小數の賣國奴（左翼作家鹿地亘夫妻の如きもその例である）の活動にもよるが、當局並に國民もかれらのデマ放送には注意せねばなるまい。また左の如き重慶側放火謀略なども大いに警戒を要するものであらう。

去る昭和九年九月、大連を中心に執拗な破壞行爲を展開し、幾多の軍用資源を烏有に歸せしめた不敵の抗日謀略團が、當局の決死的捜査により一網打盡に檢擧され、過去七年に亘る放火謀略事件が明るみに出された。昭和十六年二月五日東京朝日によれば、後方攪亂陰謀は左の如くである。

「昭和九年九月頃より大連埠頭港内にある軍用品、その他の物資に原因不明の放火事件が頻發、昭和十二年に至り、右は後方攪亂を目的とする謀略放火なることが判明した。事件はその後漸增し、昭和十五年二月頃更に激增し五十數件に達するに至つた。昭和十五年六月二十四日午後八時頃大連市内小村公園において領導者が配下工作員二名と共に街頭連絡をなした歸途を擁し檢擧の上嚴重なる取調の結果、謀略團大連地區責任者王順光なることを自供、更に本謀略團は大連はもちろん奉天、安東、北支○○○○、○○及中支○○、内地重要都市等の各地に亘る尨大なる組織の全貌が判明するに至つたので、八月十五日某所に潛伏中の首魁趙鴻明を逮捕し、約百名に上る容疑者を檢擧した。

該謀略放火破壞團の目標は、謀略放火破壞の手段により、あらゆる物資を燒却し後方攪亂によつて日本勢力を減退消耗せしめんとするものにして、放火破壞行爲により日本軍の戰力消耗に專念して來たものである。しかしてこれが工作資金十數萬圓に上り、大連地區の外各地の放火破壞事件を合すれば實に百件に垂んとする甚大な損害を與へられた。

取調の進展によりかれらの將來に對する計畫を見るに、現在活動してゐる各地區以外に、滿支重要地區における重要施設に對し、逐次組織網を擴充し、以て放火破壞を企圖しつゝある外、朝

鮮、日本內地の重要都市にも、その組織を展開せんとしつゝあることが判明、各地區工作に放火破壞を敢行すべき恐るべき陰謀を畫策してゐたものである。」

重慶側の暗殺、放火、デマなども特に注意し、相當な對策を講ずる必要があるのである。

第九章　國內運動と指導者の任務

1、民の聲を注意深く打診せよ

前記の如き列國の對日謀略攻勢が益々强化されんとするの秋、われらは如何なる對策を講ずべきであるか。

戰時下日本において最緊急事は、國民生活の安定と國民士氣の昂揚である。すなはち國民負擔の公正を期し、經濟統制の缺陷を是正し、國民士氣を阻喪せしむるが如きあらゆる敵國側の思想的攻擊を排除するにある。

戰時下經濟政策の建前として增稅や國民生活の低下は定石であるとしても、これを實行する場合、政府の上よりする强權作用のみでは目的は達せられない。國民をして感激的精神を以て、政府の政策に協力せしむるだけの聰明な政治的識見が必要である。國民が何を希望してゐるかにつき「民の聲」を注意深く打診するのが、現在日本の指導者の義務である。大政翼贊會議會局は、昭和十五年十一月末日から十二月中旬まで、全國を十九ブロックに分けて、約六十名の代議士を以て組織した調査班を全國に派遣、地方事情を現地に調査せしめた。調査の方法は大體縣廳主催或は商工會議所主催の官民合同の懇談會を開いて、各業者の集合を求め、その忌憚のない民意を求めた。而も調査員自身がその土地の施設、工場その他の實情を調査して、報告書を作成したのを代議士河野密氏が主査して政府に參考として提出したが、非常時局下の生產力擴充に伴ふ經濟統制の矛盾が指摘され、國民が何を望んでゐるかを知るに便宜であるから、左にその大要を紹介することにする。(註13)

2、國民は何を望んでゐるか

「日本全體を鳥瞰的に眺めると、日本の經濟が今非常なる大轉換をなしつゝあることがわかる。その過程にはいろいろと複雜な問題が全國的に起つてゐる。

その重要な點の第一は外交方面だ。日獨伊三國同盟が出來てから日本の貿易關係、資材需給の關係が非常に大きな打擊を受けて來た。そのため日本全體の經濟といふものが、今までの輕工業或は手工業から離れて、そこに大きな整理を斷行しなければならなくなつた。

第二の特徵は事變以來國民の非常な努力、必死の國策協力にも拘らず日本の經濟（生產擴充）が非常な困難に直面したことだ。生產擴充、增產計畫と言つてもその結果は豫期に反して減少しつゝあることだ。これは全國的な現象である。

第三の點は全面的に勞力の不足である。炭坑或は時局產業方面において、勞力の不足が非常に目立つてゐる。農林關係において、木炭製造方面において、非常に勞力が不足してゐる。その反面時局の影響により、中小商工業が打擊を受けて轉業、廢業を餘儀なくされ、この方面の過剩人口が生產方面へ直ちに補給出來ないことだ。

具體的實例を言ふならば、例へば蜜柑なら密柑を輸出し外貨を獲得したいと思つても、その蜜柑を輸出するについての箱を作る資材が足りない。箱はどうにか出來たとしても、次は釘が足りない。遠洋漁業をやつて、食糧を確保しなければならぬといふが、それに必要な油の配給が困難である。

高知產の鼈甲や珊瑚は七・七禁止令で抑へられてゐるために、外貨獲得に大きな支障を來たしてゐる。こんな例は高知に限らず鹿兒島の人造ルビー、福岡縣の蠟の輸出。その他陶磁器、織物が輸出できなくなつた。京阪神方面の雜品工業、家內工業は輸出が止つたために失業者が續出した。京都の西陣織などは禁止令の向ふ一ヶ年間緩和にも拘らず、失業技術者の轉業は困難だ。

また從來農業縣とみられてゐたものが、事變以來工業縣に推移し、米を始め農作物に甚しく不足してゐる。現に神奈川縣、富山縣などは工業躍進の結果美田が潰されて、米の生產は激減してゐる。

木炭增產は生產縣である福島、山形、秋田、青森縣への割當が尨大すぎるため勞力の不足を來し、原木採取難等が惹起されてゐる。

また米の增產計畫については材料不足とその適時配給がないため、豫定計畫通り進行しない。現に北海道は昨年非常な飢饉に見舞はれ、米の收獲が尠なかつた。それに勞力不足のところへ食糧確保のため手數を取られて、朝から列を作つて、米を買はなければならないといふ狀態である。

北九州の石炭增產は勞力不足、資材不足、勞務者移動などの原因增により增產計畫は豫定通りに行つてゐない。

3、飯と鐵砲玉主義

要するに國民は政府の指令に漠然たる不安を持つてゐる。企業合同をやれ、轉業をやれ、生產力を擴充せよと抽象的に叫ばれても具體的指示がなく、矛盾せる統制のため手も足も出ず、下情の反映が不徹底のため行政機構に內在する諸種の矛盾が指摘されてゐる。

國民は時局の重大性を認識し、政府と協力して國難を打開したい熱意は持つてゐるが、現在の如く、米を增產しろ、木炭を增產しろ、麥を作れ、甘藷を作れ、馬を增やせ、鷄を飼へと命令を矢繼早に出すが、增產に必要な資材を充分に配給せずして、握拳で增產をやれと言つたところで出來ない相談である。

今のやうな調子で萬遍なくあつちへ膏藥を貼り、こつちへ膏藥を貼ると言つたやうな行き方では駄目であるから、重點主義を採用して、最惡の場合に備へるため軍備と食糧中心主義に國民經濟を再編成しなければ迚ても時局は切拔けられないと思ふ。『飯と鐵砲玉』と言つたやうなスローガンを揭げて行かねばならないだらう。」

以上は經濟統制に對する國民の希望の一端であるが、更らに非常時局下における國民士氣の振起昂揚が何より急務である。就中日本を双肩に擔ふ青壯年の意氣を振起せしむる事が大切である。

4、戰時下國民の義務

戰時下日本における青年の任務たるや、實に重且つ大であると言はねばならぬ。時局推進の原動力、新體制展開の鍵は、かかつて青年の奮起とその組織的活動に俟たねばならぬのである。國難を双肩に擔ふ青年は、强靱な心身を以て、皇國青年たるの使命感に奮起結集し、一致團結して

敢然と進めば、昭和維新の完遂も期し得られるのである。

時局下の青年は如何なる心構へを持たねばならぬか。時艱を突破すべく青年の使命につき玆に大政翼贊會青年部長栗原美能留氏の所論の一節を掲げて參考の資に供することにしよう。（註14）

「戰場に立つて干戈をふるふ將兵たちは、祖國の正義を絶對に信じてゐる。さればこそ、戰野に屍をさらすことをもつて無上の光榮と感じ、究極の忠誠なりとして疑はないのである。わたしたちは、これら將兵を征途に送る度毎に情熱を籠め、至誠をかたむけ、銃後は必らず守ることをくりかへし誓つて來た。

遺家族の安泰、戰時資材の確保、經濟、思想、文化等々あらゆる部面の健全なる維持昂揚、これなくしてかれらを勇敢ならしめることは絶對に出來ないが、これら諸條件にもまして重要なことは、祖國の正義である。

わたしたちは命にかけても、かれら將兵の至純至高なる信念を守り通さなければならない。すなはち、いささかたりともこれを冒瀆し、これを裏切るやうなものがもしあつたとしたなら、銃後を守り得たとは斷じていへないのである。

5、個人主義を揚棄せよ

口に聖戰を叫びながら、血の戰ひの背後にあつて、私利私慾を追求し、個人的欲望の充足に汲汲として顧みないとするやうな輩がいまに至るまでなほ跡をたたないときく。これは一體何事であらうか。

わたしは、國民の一人一人が決して緊張を缺いてゐるとは思はない。必らずや身を以て事に當らんほどの覺悟なきものは、恐らくあるまいと信じてゐる。ただかれらの多くがもつその熱意、その覺悟が、個人主義、利己主義乃至營利主義等によつて歪められ、誤まれる國家觀、人生觀を根柢とせるものであるところに、決定的な誤差が生ずるのではないかと思ふ。このことは單にかれらばかりの問題ではない。實にわが國全體の問題である。

世界は決して形體ではない。一つの生命體として生きてゐる。すなはちその生成發展の必然の結果として現狀をなして來た一切の秩序、一切の條件がすでにその力を失ひ、新しき秩序と文化の創造を要請するに到つたのである。歐洲今次の動亂も、この事實の現はれに外ならない。

わが國が外に東亞共榮圏の確立をめざし、內に新體制の樹立に邁進しつゝあるのも、また實にこゝにある。ただこゝに忘れてならないのは、歐洲における獨伊樞軸が、英米等の古き支配的秩序を根本から止揚して、新しき秩序を創造せんとするに反して、わが國のそれは肇國の理念にしたがひ、國體の眞姿を顯現し、以てその本義を發揚せんとするにある。

6、國民士氣を昂揚せよ

新體制運動の要諦は、つまるところ「臣道の實踐」にあると近衞首相は說かれた。眞の臣道の實踐を期待するためには、それをなし得るの臣たり、なさしむる國家體制たらねばならぬ。わたしは遺憾ながら、現下のわが國の體制をもつて、安心出來るものとはなし得ない。この意味において、新體制とはまさしく昭和維新なることを信じて疑はない。

昭和維新とはなにか。學問、思想、經濟、軍事、外交その他百般の生活分野に亘つて、根本的な再檢討、再編成を完遂し、舊弊の一切を止揚脫却して一億一心、各々そのところにあつて相勵まし相扶け、臣子の分をつくす體制、すなはちわが國本來の眞姿にかへることである。

しかもかゝる國家の根本的改變を、現になされつつある一切の國民生活のいぶきを斷絕することなく、更に日に新たに加重せられある大東亞建設の具體的な要請によく應へながら、なし通さねばならないのである。

困難といへばこれほどの困難はない。しかしこれをなし得ないかぎり、わが國の興隆は絕對になく、國家使命の達成は遂に望むべくもない。しかしこれをなすものこそかゝつて青年諸君である。」

國民士氣の昂揚と言つても何も大言壯語をならべたり、美辭麗句を述べたりすることではない。いはゆる內外の時局を間違へず正確に認識せしめ、その認識の上に帝國の運命を双肩に擔つて立つ毅然たる態度である。不退轉の決意を以て天に冲する熱情を燃え立たせて國策に協力邁進せしむる事が肝要である。

7、翼政會戰力增强要綱

大東亞戰爭一周年を迎へて、米英擊滅の敢鬪精神をいよ〳〵昂揚し、一億國民の總力を擧げて

國內を戰場たらしめる意氣をもつて、生產の增强、戰爭生活の實踐に徹底せしめるため大政翼贊會では强力活潑なる國民運動を展開した。

その決定せる戰力增强方策の要綱中において　一、國民精神の昂揚　一、戰時生產力の强化、一、戰時國民生活の確立等を揭げ、特に（イ）產業再編成の强化、（ロ）國民皆働（ハ）重點輸送協力、（ニ）適正配給の實踐、（ホ）國民貯蓄强化等に重點を置き、一大國民運動を展開されたことはわれらの欣快の至りである。その實踐要綱を揭ぐれば左記の通りである。

第一　指　標

一、我等は肇國の大理想の下、豪壯なる國民的氣魄と雄大なる日本的世界觀に徹し、米英的世界秩序を徹底的に打破すべく、長期戰に對應し、必勝の信念の振作を期す。

一、我等は緊迫せる戰爭の現段階にかんがみ、速に戰爭經濟體制を確立し、徹底せる施策により基本軍需產業の飛躍的增强を期す。

一、我等は不退轉の決意をもつて、困苦缺乏を克服し、必勝生活態勢の確立を期す。

第二　具體要項

一、國民精神の昂揚

（イ）國民氣魄の作興。緒戰以來の赫々たる戰果に醉はず敵國の一切の企圖を破摧し、不撓不屈戰爭目的の眞義を把握し、以て豪壯雄大なる國民精神の作興を圖るを要す。

（ロ）新秩序に對する認識の徹底。皇國の使命は舊世界秩序の根基を成す米英による世界制覇を粉碎し、民族をして各々その所を得しめ、肇國の大理想を世界に光被するに在り、須らくこの世界史轉換過程を深く認識するを要す。

（ハ）國民總協力態勢の强化。戰爭の新段階に對應し、承詔必謹の大義に徹し、聊も私あることなく官民一致協力、職域奉公の誠を效し、以て挺身國民總協力態勢を强化するを要す。

二、戰時生產力の强化

戰時經濟の下、生產力の增强をはかるがためには、業者の創意を尊重すると共に、企業の國家性を極度に發揮するの必要あり、しかるに現狀は動もすれば官の統制途に則らず、業者亦時局認識に徹せざるものあり、爲に生產增强を妨ぐるの憂尠しとせず、仍て速に左の施策を具現するを要す。

（イ）基本軍需產業に對する施策の擴充更新、戰爭の現段階に卽應し、鐵鋼、石炭、非鐵金屬、輕金屬、船舶、航空機等基本軍需產業の生產力を飛躍的に增强する爲企業の特質と實情

に應じ、

(1) 徹底せる國家本位の諸施策を實行すると共に、論功行賞の途を講じ、以て皇國産業應召の至誠に奮起せしむるを要す、なほ特殊の場合においては法の發動もやむを得ざるものと認む。

(2) 基本軍需産業中緊切なる施設に對しては更に國家負擔の範圍を擴大し、以て生産增强の急に應ずるの要あり。

(3) 技術の改善、能率の增進は戰時經濟下における生産力增强上喫緊の要務たるにかんがみ試驗研究の綜合的利用、技術の公開及びその交流等に對し一段の工夫を凝らすと共に企業内容の合理化をはかり、以て生産能率の增進に努むるを要す。

(ロ) 簡素强力なる行政の確立、基本軍需産業の生産增强はその最大要因たる勞務、資材、資金等の統制、管理、監督が各省に分屬し、ために生産能率の擧らざる現狀にかんがみ、これらの權限を一元的に統一せしむべく、速に簡素にして强力なる行政を確立するを要す。

(ハ) 戰時經濟統制運用の刷新、現下の戰時經濟統制は重點主義並に生産第一主義を要諦とす、然るに從來機械的、劃一的又は地域的割據の弊に墮し、ために生産能率を阻害すること尠からず、よつて經濟各部門に卽應し緩急その宜しきを制し統制の運用に刷新を加ふるを要す。

三、戰時下國民生活の確立

(イ) 戰爭生活の確保と規正、國民生活の保障は戰時經濟運營の一大要點にして、國民をして聊も不安なからしむべきは言を俟たず、國民またよろしくその生活を規正し、あらゆる困苦缺乏に堪ふるの覺悟なかるべからず、特に公に職を奉ずる者、その他指導的地位にある者は自肅自戒、以て率先垂範に任ずるを要す。

(ロ) 戰時經濟道德の振作、自我功利の念を去り、自らを律するに嚴にし、遵法良く規律ある生活を堅持し、戰時經濟の秩序維持を期するを要す。

第三　實行方法

上記の趣旨を徹底するため政府に積極的に協力し、中央地方を貫く實踐運動を展開するものとす。

8、國民の覺悟と指導者の任務

この翼賛會の基本要綱は國民の誰もがその必要を痛感してゐる問題ばかりである。これを高い演壇の上から國民に向つて呼びかけるだけなら今までの運動と何等の變りはない。問題は如何にして實踐し、また實踐せしめるかにある。戰場精神の昂揚といひ、生産力の增强といひ、如何なる具體的方策をもつて實踐するかにある。

政府如何に笛を吹けども國民は踊らずでは何等の效果も期待出來ないのであつて、翼賛會の呼びかける聲に協力する國民の心構へが大切である。戰爭遂行に對する國民の自覺が肝要である。この點に關して大東亞戰一周年を迎へての大本營陸海軍報道部員の合同座談會における陸軍報道部員秋山中佐の所感を借用する。（昭和十七年十一月十八日附東京日々新聞）

「私はこの間田舍を廻つて來たのですが、平出大佐のいはれたやうに田舍はしつかりしてゐると思ひます。しかしどこかにやはり一脈の心配すべきものが芽生えつゝある。戰爭が非常に大事なものであるといふことはよく判つてゐるけれど、何となく遊離して來てゐるやうな形が見える。平出大佐の所謂利己主義といふものが禍ひしてゐる。日本の農村は本當の意味で戰線に立つ將兵の培養地であり、日本の基であつて、農民魂といふものが日本精神の最も純粹なものだと思ひます。

しかし惡い意味ではないでせうが、增産をやるよりも日雇に出て現金收入をはかりたいといふやうな氣分が各方面に動いて來たり、或は田舍では全然見られなかつた闇取引が段々現はれて來た。これはまだほんの芽生えでありませうが、憂慮すべきものだと思ひます。都會においても、さういふ精神が行はれてゐるといふことは、これはわれ〳〵十分心得てゐますけれども、都會は必らずしも日本の全部ではない。しかし、農村が腐つて來たら大變だ。そして自分がこれだけ惡いことをやる。或は闇取引をやるといふやうな、ほんの些細な私の行爲が戰爭の大局に映つてゐるものだといふやうな點に自覺が足りない。それほど惡い意味でなしに惡いことをやつてゐる。いはゆる闇取引といふものがほとんど全國に瀰漫しようとしつゝある。私はこの點を非常に心配してゐる。」

農民の自覺を促がすばかりでなく、秋山中佐は更らに都會の産業戰士の奮起に對して左の如く希望してゐる。

「日本國民は最も優秀な性質をもつてゐるし、戰爭に對しては世界一だと思ひます。愛國心も決して他にひけをとらぬ。それだから戰爭に勝つわけですが、戰場において日本はなぜ強いかといへば、陸軍だつて海軍だつて指揮官が先頭に立つ、そして兵隊と同じ飯を食ひ同じ苦勞をする。こゝに部下が完全に一體となつて命を投出してゆくのです。今米國と戰はうといふのに第一線だけで戰へるかどうか。やはり日本の生産部門をうけもつてゐる會社なり工場も負けぬだけの力を出さなければならぬ。さうすると何が一番大事かといふに、陣頭指揮をやるべき重役連が本當に陣頭に立つことです。もう一つは職工たちと同じやうな生活をやり或は苦勞をすることです。戰場において戰ふ軍隊指揮官と同じ氣持になることが必要です。さらにこゝ數年間利得といふことは全然度外視することです。

報酬も半分か三分の一に減らすといふ決心をしただけで、私は現在工場にゐる優秀な日本産業戰士、これはもとより大和魂の所有者ですから、感奮興起して實に立派なるものが出來るし、生産能力もどん〳〵上ると思ひます。私はこの一點に集中して今後の生産增强といふ問題を解決してゆけると思ひます。然し一面勞務者の方では、特に徵用員の中には、俺達は重役に儲けさせるために働くのはつまらぬといふ氣持が動いて十分働かぬものが多いと聞いてゐる。この國が亡びるかどうかといふ瀨戸際に、重役がどうのこうのといひながら、これを相手としてゐるとは何といふ情ないことか。對手はアメリカだ。目標は國家を救ふことだ。かう考へを變へることが出來なければ眞に産業戰士などと言へないと思ひます。」

秋山中佐の指摘するが如く、日本國力の基礎である農民が日雇を好み、現金收入にのみ走り、闇取引が横行するやうでは、國家の前途は一大事である。また都會においても各種工場の重役並に幹部連が滅私奉公の心持で陣頭指揮をやらねばならぬが、勞務者が階級鬪爭華やかなりし頃のイデオロギーを持ち、重役連を肥滿させるために働くのはつまらぬと言つて、サボタージュをやり出しては生産增强などは到底おぼつかない。例を擧げて言ふならば、造船能力において、前の歐洲大戰當時においてさへも、鋲を打つことさへ現在の〇倍以上の能率をあげてゐる。勿論これには優秀職工の應召出征にもよるだらうが、一萬噸級の船舶が〇月で出來たものが、現在では〇月もかゝると聞いてゐるが、これなどは憂慮すべき現象である。

農村と都會の人々に時局認識を說き、協力精神を鼓吹するはよいが、また官界の獨善主義も拋棄しなければならぬ。國民に對して闇をやるなとが情實賣買をやめろと言つても、國民生活必需品の配給に不安があつて、國民に生活の安定を與へ得なかつたとしたならば、國民運動の徹底は

所期の目的は達成せられない。政府・官公署、翼賛會などが一致協力して生活必需物資の受給方法の改善に力を注ぎ、國民生活の明朗化、簡素化、剛健化の指導も、これが效果を擧げるには各種傘下團體の協力が特に要請されるのである。團體の力によつてこの困難を克服せねばならぬ。各民各層の協力に俟たねば、國民士氣の昂揚も、生産增强も所期の目的は達成せられない。三千年來の日本國家興亡の岐路に立つの秋であるから、國民各層が我慾を棄て御奉公するといふ自覺を持たねばならぬ。

第十章　むすび

1、敵國の謀略を排除せよ

以上において近代戰における謀略工作の概觀を檢討して來たのであるが、政治、經濟、軍事、外交、思想等各方面に謀略の範圍が擴大されるに至つたから、從つてその防衛對策も廣汎多岐にわたらざるを得ないのは當然である。

敵性國家の國內謀略（革命、暴動、叛亂、暗殺、買收、罷業、放火等）に對しては關係官廳の努力と國民の緊張に俟たねばならないが、最も注意を要するのは、國內において敵國側と內通する賣國奴（スパイ、宣傳員、情報通知）に對して峻嚴なる態度を以て臨むことである。（註15）

ドイツ參謀本部は國內における反戰運動者や謀略攪亂者に對する防遏手段として、（一）主謀者の逮捕及び投獄、（二）煽動的宣傳分子を軍隊に召集して宣傳の餘裕を與へない、（三）軍需工場の軍隊化、（四）在鄕軍人の政治團體加盟の禁止等の防遏手段を執つたが、リープクネヒト、ローザ・ルクセンブルグ等の政治的煽動により罷業が各所に勃發した。

2、健兵健民へ邁進せしめよ

わが國內治安工作は旣に改正治安維持法あり、これに國防保安法、軍機保護法、要塞地帶、軍需資源保護法等があるから、これが施行を徹底せしめ、その保護の軍機內容を廣く國民に解說して協力を求めることが必要であらう。

共産主義の恐るべきは言を俟たぬが、自由主義、個人主義、民主主義等の連合による人民戰線の攻擊を排し、國民生活を浮薄に導く安價なる享樂生活（ジャズ、ダンス、麻雀、レビュー等）より脱せしめ、剛健なる生活と健全なる思想を把握せしむるやういはゆる健兵、健民主義に向つて國民を敎導すべきであらう。

平時戰時を問はず、國家の生産力を低下せしめ、やゝもすれば階級鬪爭にまで導かんとする勞働爭議や罷業などの不祥事は絶對排擊すべしである。

わが國の如き警察制度の完備せる國では、歐米諸國に行はれる破壞、放火、暗殺の如き謀略行爲は困難であるが、新聞の買收、罷業の煽動の如きは（ロンドン會議當時わが國某新聞社はイギリスより買收せられたりとの噂あり。）日本樂器會社の爭議にはソ聯より運動資金提供されたる事實あり）斷乎として摘發して斷壓する必要がある。

3、國民生活を確保せよ

國家總力戰政策を全面的刷新强化し、國民生活資源の確保、消費者組織の整備、適正資金水準の確立を期し、最低國民生活を確保すべきである。そして時局認識の正しき生活觀を樹立し、生活の科學化、共同化、單純化を圖り、國民生活の健全明朗化を圖るべきである。

國民をして聖戰必勝の信念と大東亞共榮圈の理想を堅持せしめ、敵性米英諸國家の宣傳謀略を粉碎し、前途に横はる如何なる困難をも突破するの士氣を昂揚せしむべきである。

わが國體は萬邦無比であり、日本民族の愛國精神はルーデンドルフも羨望してゐるところであるが（註16）わが國民には近代戰特有の神經戰術攻擊をよく理解せしめ、これに耐へしむることが緊要である。すなはち長期戰に伴ふ國民緊張生活の疲勞、國民飢餓を目指す封鎖戰術、空襲爆擊による混亂等より生ずる國民士氣の倦怠乃至精神的動搖には、特に注意して、防衛策を講ずべきである。

引用書目

（註1）小松孝彰著「近代戰とプロパガンダ」二〇頁參照
（註2）本郷弘作著「近代兵學」二〇四頁
（註3）モントゲラス「將來戰汎論」（戰爭の潜在性）陸軍技術本部譯　一四七頁
オーリツド　戰爭の潜在性」（神永譯）一七二頁參照

（註4）ニコノフ「軍事組織の基礎と列國の軍勢」（橋本弘毅譯）一三四頁
三島康夫著「赤軍の新研究」參照
（註5）金子堅太郎伯回想談「偕行社記事」參照
（註6）前掲ジョージ・アストン卿「英國の機密室」自一六五至一六七頁
（註7）牧勝彥著「英國スパイ五百年史」參照
（註8）中野好夫著「アラビアのローレンス」二頁
Captain Liddel Hart: "T. E. Laur Ence in Arabia and After"
（註9）"Seven Pillars of Wisdom,, 參照
（註10）前掲「ドイツ西部作戰」一九一頁
（註11）皆川鎭彥譯「ビューロウ侯回想錄」參照
（註12）エンゲルブレヒト「世界兵器工場物語」大江新一譯　自一三四至一三六頁
"Merchant of Death"
（註13）東京朝日新聞（昭和一六・一・一二）參照。
「實業之日本」誌（一六・二・一號）「國民は何を望むか」參照
（註14）大政翼贊叢書（第八輯）栗原美能留「新體制下の青年の任務」參照
（註15）前掲ルーデンドルフ「國家總力戰」五二頁
（註16）前掲　〃　「國家總力戰」三六頁參照
フォッシュ著「戰爭論」（伊奈重誠譯）一一頁參照

第三篇　防　諜　戰

——基本要綱——

○最近諜報の傾向が從來の非合法手段より合法手段に綜合移行せんとする實例に鑑み、積極的防諜に携はる官廳は勿論、消極的防諜に携はる國民に、防諜心得事項並に國防保安の內容を說明し、自發的に積極的に關係官廳と協力するやう敎導すること。

○國內防衛關係各官廳が從來の如き割據主義（セクショナリズム）に墮することなく、各機關の連絡統合を圖り、國內防衛思想を大規模に宣傳すること。

○「掛けよ一億防諜マスク「聽くな流言、語るな軍機」の如きスローガンの下に時たま防諜訓練（防空演習と併行するも可なり）を行ひ、ラジオや映畫に「防諜デー」乃至「防諜週間」を設けて、廣く一般に防諜觀念を扶植すること。

○英米獨佛における諸大學の思想國防講座の如きものを各種大學、專門學校、靑年學校に設けて、軍事普及並に積極防諜に邁進せしむべく誘導すること。

第一章　近代スパイの多角化

1、諜報範圍の擴大

近代戰はいはゆる國家總力戰であつて、これを武力戰と秘密戰に大別することが出來る。秘密戰は實行手段として宣傳、謀略、諜報により、作戰地帶はもちろん國內においても活潑に行はれてゐるのである。

敵性國家は國家の軍事事項に止まらず、外交、財政、經濟の重要機密を探知蒐集して、これを軍事、外交に利用するのみではなく、更らに獲得した資料を應用して、積極的に對敵宣傳、謀略を敢行して、相手國を內部的に崩壞せしめんと企圖しつゝあるのである。

殊に戰爭が長期化するにつれて、かくの如き秘密戰は益々活潑となり、國內事情のスパイ戰は愈々熾烈となつて來たのである。「爆彈を持つた兵隊よりスパイの方が怖ろしい」と言はれるの

は、近代戰が單なる戰場における武力戰ばかりではなくして、國民と國民との戰となつたからである。そのスパイ戰術も往時の如く、戰車、飛行機、新式兵器、要塞、軍港の見取圖、砲臺のスケッチ、秘密暗號帳、敵軍攻略計畫、毒ガス構成方程式などの盜取より、更らに進んで、敵國內に忍び入り、軍需工場を破壞したり、職工にストライキを起させたり、敗戰思想を吹きこんだりする後方攪亂戰術にまで進化して來たのである。換言するならば近代スパイ戰術は、軍事機密の探知から、人的方面では人口、思想、物的方面では資源生產にまでその探知蒐集の範圍が擴大されて來たのである。

2、スパイ組織の機械化

スパイは實戰地帶から、何千哩も離れた敵國內で、財界を攪亂したり、國民を煽動して、生活不安を增大させたり、工場を破壞したりするのであるから、一人や二人では到底その目的は達せられないので、スパイ司令部を設けて、指揮者が秘密裡にボタンを一つ押せば、忽ちスパイ群の大活躍となるといふやうに頻る機械化して來た。

現代の高度化された總力戰の段階では、二三の天才的なスパイの離れ業や、決死的な軍事探偵ばかりで、國家の機密は容易に探れるものではない。前線における情報の蒐集は、捕虜の陳述、文書、占領地からの避難民、空中撮影、聽音機、砲音分類裝置、無電などから得られるが（註1）後方の諜報の蒐集はその範圍においてはるかに廣汎多岐に亘るのである。

殊に最近における諜報の傾向は、從來の非合法手段（秘密行爲による內偵、機密の竊取乃至盜寫、無線傍受）より合法的手段（社交、商取引關係、見學、旅行、視察、布教）に普遍多角化されたことは、積極的防諜に携さはる官廳はもちろん、消極的防諜に携さはる國民の特に注意しなければならぬところである。（註2）

また印刷文化より生ずる各種の文書蒐集、すなはち新聞、雜誌、ラジオ、年鑑、統計、報告、繪畫、寫眞等、及び官、公、私刊行物の綜合的科學的研究により軍事上の秘密、軍用資源秘密、國家總動員秘密、外交的秘密、內政的秘密、產業資源秘密、國民思想秘密、作戰計畫の秘密等の動向を打診判定されることもある。

眞の諜報は合法的に組織化された尨大な機構によつて行はれるものである。昔は兵器、被服、彈藥、食糧等は軍自體で行つて來たが、總力戰の現代では民間が參加して來たから、民間人がこ

の秘密を守らねば、軍の機密が漏洩する惧れが多分にある。

3、綜合的探知法の發達

例へば綜合的ニュースの結果から、軍の作戰計畫が豫想される例を、今次歐洲大戰に採つてみよう。ドイツ軍占領下の海峽諸港から得た情報の綜合として、左の如き英本土上陸作戰が豫想せられるのである。（註3）

一、ドイツ軍はフランス領に飛行機を飛ばすため、カタパルト裝置を有する地下飛行場を數個所に建設してゐる。

一、數千隻の敵前上陸用輕船を集結中である。

一、英佛海峽方面に多くの軍隊の移動が行はれてゐる。

一、フランス工場で多數の救命具が製作されてゐる。

一、ドイツは英佛海峽に沿ふダンケルク、ブレスト附近地域に約二十マイルの幅で立入禁止を行つてゐる。

以上のニュースを綜合すれば、ドイツの對英上陸作戰の準備をしてゐることが豫想される材料となるのである。

戰時下のわが國の例を採つて見れば、兵員の增加のため兵營建築の擴張工事をする。幹部の多量必要のため軍事關係諸學校の採用入員を增加する。糧食の徵發購入數量は多數の兵員增加を示す。軍需品の必要から多量の軍需品が民間工場へ注文される。これらの民間各層へ分散滲透してゆく國家機密を歸納し綜合すればわが國の軍の機密事項が相當の程度まで了解される譯である。

知人親戚の召集を街頭で何氣なし話をしてゐる。一見して何の價値もない街頭談話が、日本全土に網を擴げた合法的な外國の諜報網の組織機構の中に探知綜合されると、目下日本は何師團と何師團が動員されてゐるとの結果となつて現はれて來るのである。

陸海軍部の上層部の人物論の如きも、新聞雜誌上に掲載されると、それが早速敵國に飜譯されて、部隊長の趣味嗜好並に性格經歷等により、新作戰及び新行動を窺知し得るのである。

第二章　列國諜報網の素描

一、完備せる英國諜報部

敵性國家はかくの如き方法手段により軍事、政治、外交、經濟、思想のあらゆる方面から情報を探知蒐集するのである。各國の情報蒐集方法については、それ〴〵特徴があつて、軍事的情報に主力を集中する國があり、また產業經濟の情報蒐集に力を注ぐ國がある。前大戰中ドイツ參謀部の情報部長として活躍したニコライ中佐の回想錄によると、各國情報部の對獨攻勢の中でもイギリスの情報部の活躍が最も猛烈と陰險を極めたものであつたことを指摘してゐる。

イギリス情報部長コッケリル將軍は、戰後その職を去るに臨み、左の如き感謝の意をその部下に述べたのを見ても、英國の情報部が如何に努力したかがわかる。

「諸君は情報局に無量の價値ある情報を提供した。封鎖大臣は諸君の活動が封鎖に對し、多大の貢献あることを認めた。敵國貿易の破壞に關しては、諸君の情報は最も價値あるものであつた。殊に中立國船舶内にある敵貨の發見は機敏に行はれた。敵國貨物の輸送を妨げた額は七千萬ポンドに達し、敵國海外貿易はこれにより全部破壞せられた。玆に余は衷心より諸君に感謝の意を表するものである。」

英國情報部の組織の廣大と規模の完備、そしてその多數の人員と豐富なる資金は驚くべきものがある。ロンドン、ダウニング街十番地にある「英國諜報部」から世界各國に特派されたスパイは非常な數に上つてゐる。

イギリス諜報部の組織は次の如く數課に分れて、各自特徴のある活躍を續けてゐる。

一、外務諜報部（F・I・D）外國大公使館の監視を擔當してゐる。

二、海軍諜報部（N・I・D）海軍に關する諜報の任務を引受けてゐる。この中には軍事、政治、極秘の三課がある。極秘課の中には諜報蒐集、逆間諜、怠業彈壓、檢閲、海底電信、海軍無線の監視などがあり、この外に艦隊諜報課が別に附屬してゐて、七つの海を支配するといふ英艦隊の海軍諜報課が暗躍してゐる。

三、陸軍諜報課（W・O・I・D）陸軍に關する諜報は陸地測量、作戰、機密の三課に分れて

ゐる。この機密課に屬する多數のスパイが世界各地に派遣されてゐる。尙、郵便檢閲特別係が直屬して暗號解讀その他間諜事項を司つてゐる。

四、貿易諜報課（B・O・I・I・D）貿易産業に關する事項を司つてゐるが、有數の貿易國だけあつて各商工界の大立物や重鎭といつた顔觸れが献身的に働いてゐる。

五、內國諜報課（H・I・D）は國內情報蒐集に當り、警視廳と密接な聯絡を取つてゐることは勿論である。

六、植民地諜報課（C・I・D）海外植民地の諜報で印度諜報課も特に附屬されてゐる。太陽の沒することのない大英帝國と自負するだけあつて、各植民地の諜報を一手に引受けてゐる。

イギリス諜報部は陸海軍人の中から適當な人物が撰ばれて特殊任務に就く外に、特に民間側からも偉材を求めて、その職務に適當した任務を課してゐる。一度派遣した間諜を十年でも二十年でも任地に就かしめて活躍せしむるところにイギリス諜報部の根强さがある。これらの特殊任務に服務してゐる者は、大學教授、牧師、醫者、文學者、記者、商人、牧師、ホテル・ボーイなどあらゆる職業の者が含まれてゐる

英國を支へるこの諜報部は以上の如く整備されたものであり、從つて人材も各方面の偉材が集つてゐるのである。われらの記憶にも「アラビアのローレンス」として知られてゐるローレンス大佐、軍需王ザハロフ、「英國の機密室」の著者ジョージ、アストン卿その他の群雄が雲の如く輩出してゐるのである。

2、恐怖ソ聯のゲ・ペ・ウ

次ぎにソ聯の諜報部の活躍であるが、ソ聯をして偉大にしたのはいはゆるゲ・ペ・ウの名によつて知られてゐる諜報網で、これはソ聯の國家保安部の略稱である。ゲ・ペ・ウは單に外國の諜報を蒐集するに止まらず、國內的にも壓倒的な生殺與奪の强權を持つてゐる。對內的には反革命陰謀、反スターリン政權運動抑壓のために備へ、對外的には各國の政治、經濟、軍備の機密を探る諜報機關で、ゲ・ペ・ウの特色は投獄、流刑の特權を持ち、堂々二十數萬人の兵力を擁してゐることである。モスクワのルビアンカ街二番地がその本據である。

ゲ・ペ・ウの組織は次の十部門に分れてゐる。

一、反間諜部、在外のソ聯人を取締るのである。外交關係者、新聞記者、商人たるを問はず、

すべての在外ソ聯人を嚴重に監視してゐる。また外人のソ聯國内旅行者を監視する役目を持つてゐて、次の五課に分れてゐる。1、旅館、劇場、料理店課、2、3、バルチック沿岸地方課、4、東洋課、5、歐米課。

二、秘密部、これは反共產運動、反幹部運動、反宗教運動等の對内取締りを行つてゐる。

三、經濟部、產業經濟の不正や海外よりの產業經濟間諜の防止をなす。

四、情報部、ソ聯國民の思想、生活、映畫、演劇、美術等を監視し、信書の檢閲を行ひ、社會各層の國民生活情勢を調査する。

五、軍事特別部、陸軍、海、空軍を監視する憲兵の役割を果してゐる。

六、東洋部、東洋諸民族、外蒙、ツングースなどを監視し、東洋語を話す者を擁して監視情報の蒐集をなしてゐる。

七、技術部、機密書類の保管、情報の技術的部面、通信の開封、秘密書類の復寫、旅券の僞造を分擔してゐる。

八、執行部、犯人逮捕、訊問、處刑を擔當する。

九、國境部、ゲ・ペ・ウの軍隊として一朝有事の際は戰車、飛行機、砲艇等の優秀武器を持ち、平時は密輸入防止、國外脱走兵、不法入國等を取締る。

十、外國部、通稱を「イノ」といふ。外國へ派遣されてゐる十萬餘のソ聯スパイの監督と指導とに當るもので、この部だけでも年に二千五百萬ドルの經費を使つてゐるのを見ても、その尨大な機構がうかゞはれる。

3、氣鋭ナチスのゲシュタポ

新進氣鋭のドイツの諜報部は通稱「ゲシュタポ」なる名で呼ばれてゐる。ドイツは帝制時代から有數のスパイ組織が完備してゐた。ヒトラーが政權を獲得してからこの制度を復活し、ヒトラーの率ゐる親衛隊の中から新生せしめたのである。

「ゲシュタポ」(秘密政治警察の意味)はナチスの諜報部であつて、國内的には反ナチス運動を彈壓し對外的には諜報關係を司つてゐる。「ゲシュタポ」の統率者が宣傳大臣ゲッベルスと双び稱されるハインリッヒ・ヒムラーである。この「ゲシュタポ」は、有爲の人材を集めてゐる點ではイギリス諜報部に勝るとも劣らないものがある。